

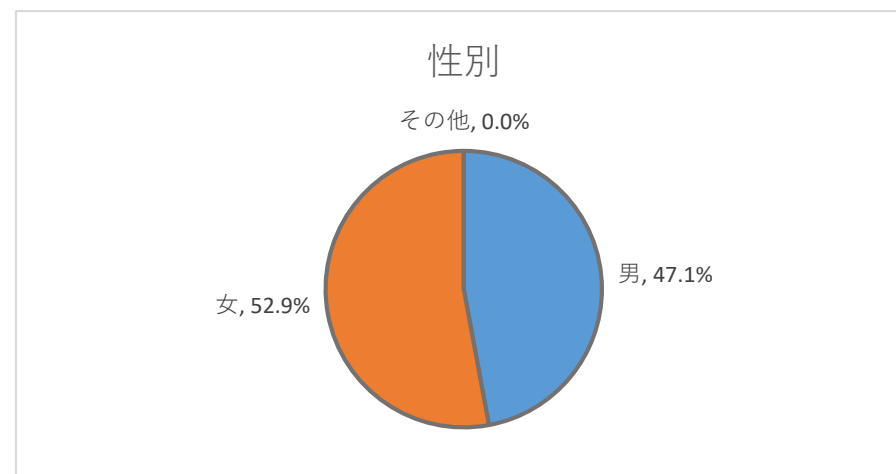
ひとりの幸せを支え合うきずなアンケート調査（実践者編） 一覧表

2021.10.18現在

回答数	604
回答率	57.0%

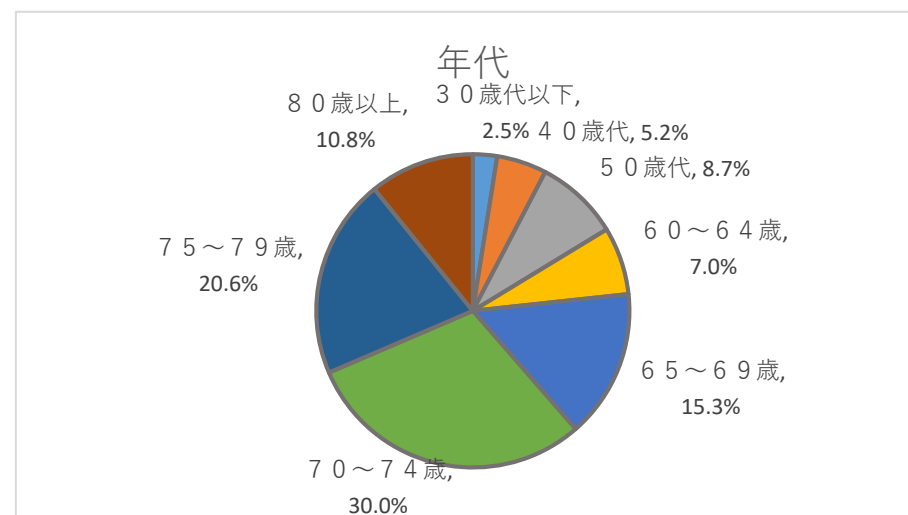
1. 性別 有効回答数 582

項目	回答数	割合
男	274	47.1%
女	308	52.9%
その他	0	0.0%



2. 年代 有効回答数 601

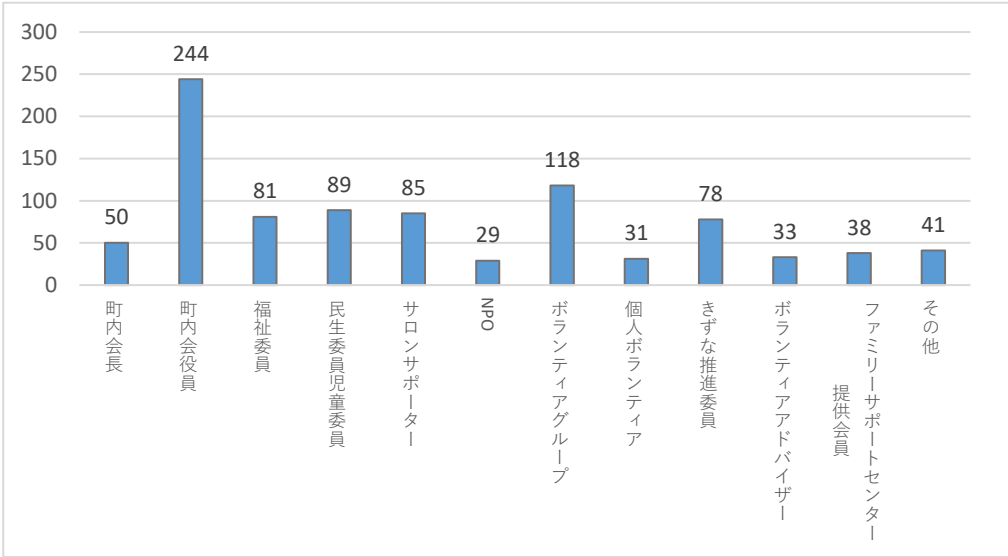
項目	回答数	割合
30歳代以下	15	2.5%
40歳代	31	5.2%
50歳代	52	8.7%
60～64歳	42	7.0%
65～69歳	92	15.3%
70～74歳	180	30.0%
75～79歳	124	20.6%
80歳以上	65	10.8%



3. 携わっている福祉活動

有効回答数 569

項目	回答数	割合
町内会長	50	8.8%
町内会役員	244	42.9%
福祉委員	81	14.2%
民生委員児童委員	89	15.6%
サロンサポーター	85	14.9%
NPO	29	5.1%
ボランティアグループ	118	20.7%
個人ボランティア	31	5.4%
きずな推進委員	78	13.7%
ボランティアアドバイザー	33	5.8%
ファミリーサポートセンター提供会員	38	6.7%
その他	41	7.2%



《その他活動》

スポーツボランティア	障害者自助グループ主宰	老人クラブ役員	障害福祉事業
以前子供が幼い時にお世話になっていました。提供を受ける方でした。今後も家族の介護がありますので活動に参加することは難しいです。申し訳ございません。ありがとうございました。			
町内会福祉部			
会社で企画したボランティアに参加	介護事業に従事	老人クラブ役員	老人クラブ役員
老人クラブ役員	登別市手をつなぐ育成会	なし	
障害者本人	老人クラブ連副会長	スポーツサークル（健康維持）	
障害者団体会員	子ども見守りたい	所属しているサークルが年に数回(今は0)、市民とともに活動	
障がい者団体役員	福祉部長	会社で年2回地域貢献活動を実施	
登別市手をつなぐ育成会、登別手話の会		登別更生保護女性会	まちづくり促進期成会
更生保護女性会	なし		

4. 福祉活動年数

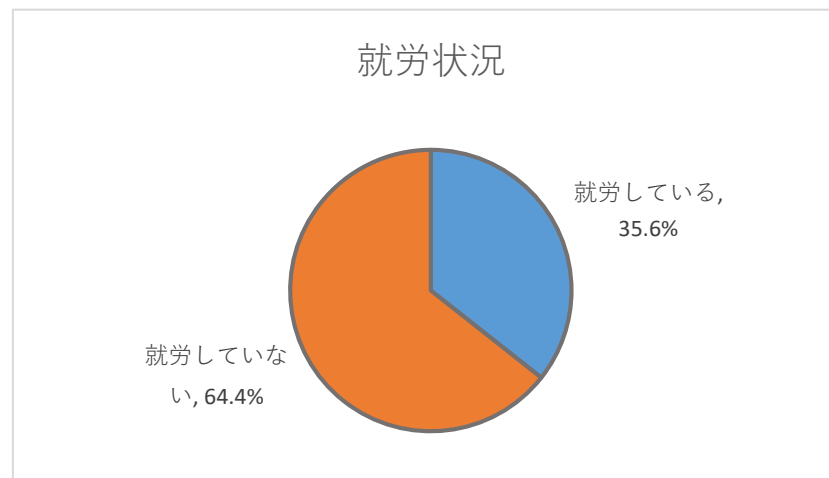
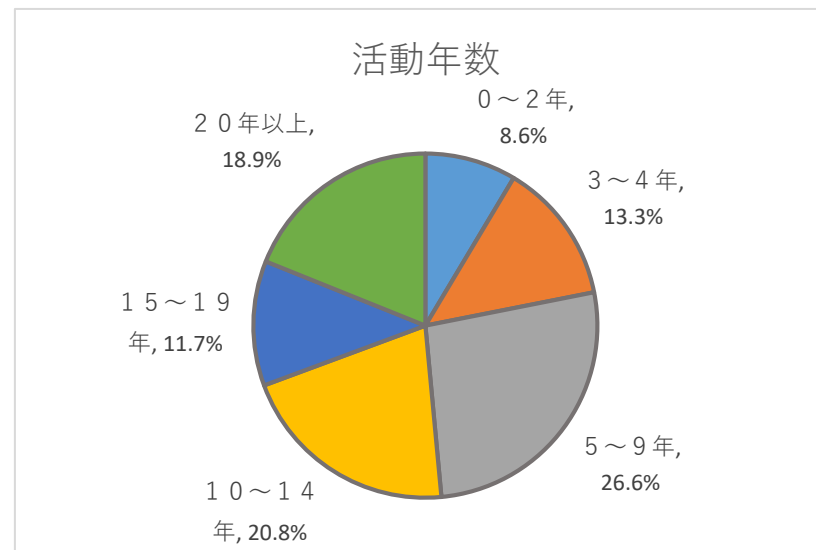
有効回答数 571

項目	回答数	割合
0～2年	49	8.6%
3～4年	76	13.3%
5～9年	152	26.6%
10～14年	119	20.8%
15～19年	67	11.7%
20年以上	108	18.9%

5. 就労状況

有効回答数 595

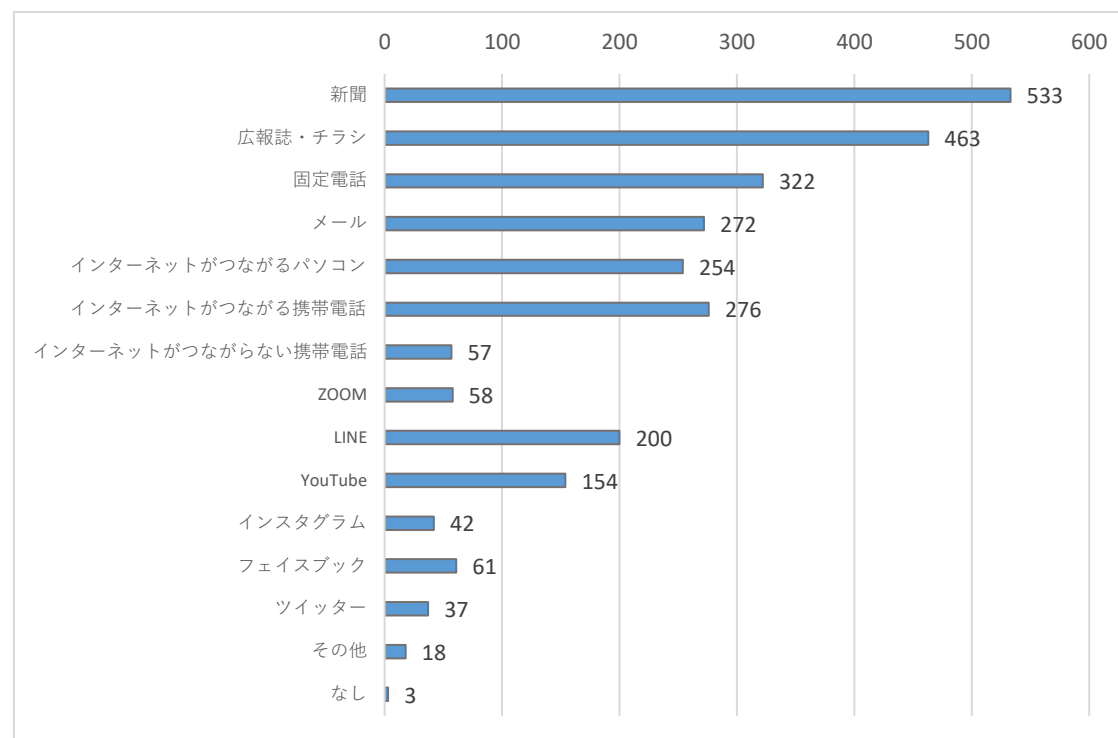
項目	回答数	割合
就労している	212	35.6%
就労していない	383	64.4%



6. 使用できる情報収集手段

有効回答数 598

項目	回答数	割合
新聞	533	89.1%
広報誌・チラシ	463	77.4%
固定電話	322	53.8%
メール	272	45.5%
インターネットがつながるパソコン	254	42.5%
インターネットがつながる携帯電話	276	46.2%
インターネットがつながらない携帯電話	57	9.5%
ZOOM	58	9.7%
LINE	200	33.4%
YouTube	154	25.8%
インスタグラム	42	7.0%
フェイスブック	61	10.2%
ツイッター	37	6.2%
その他	18	3.0%
なし	3	0.5%



《その他手段》

うわさ話	会議、研修会、講演会、懇親会等の会合	ラジオ	テレビ
ファックス	テレビ、知人、友人	友人	テレビ
道路横草取り中散歩している数人が色々お話をしてくださる。特に高齢の方が多いです。			
ボランティアに参加している集まりの中で		団体の発行するチラシ、ポスター	
ボランティアの会	メッセージャー	テレビ	
タブレット（インターネット）	テレビ	テレビ	

7. 居住小学校区

有効回答数 591

項目	回答数	割合
登別小学校区	73	12.4%
幌別東小学校区	38	6.4%
幌別小学校区	77	13.0%
幌別西小学校区	93	15.7%
青葉小学校区	68	11.5%
富岸小学校区	100	16.9%
若草小学校区	68	11.5%
鶯別小学校区	74	12.5%

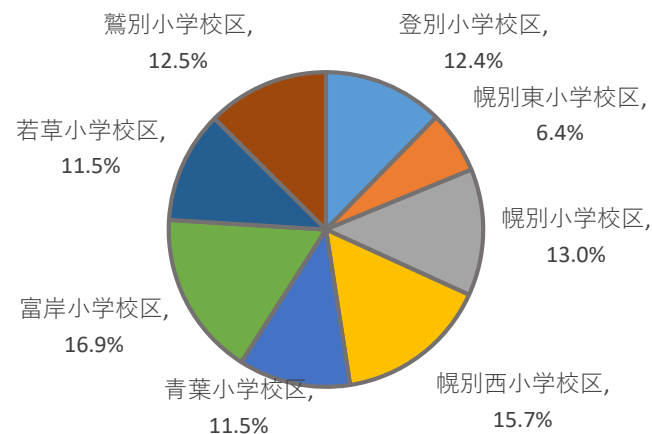
8. 5年前との比較

(1) 町内会での定期的な見守り活動

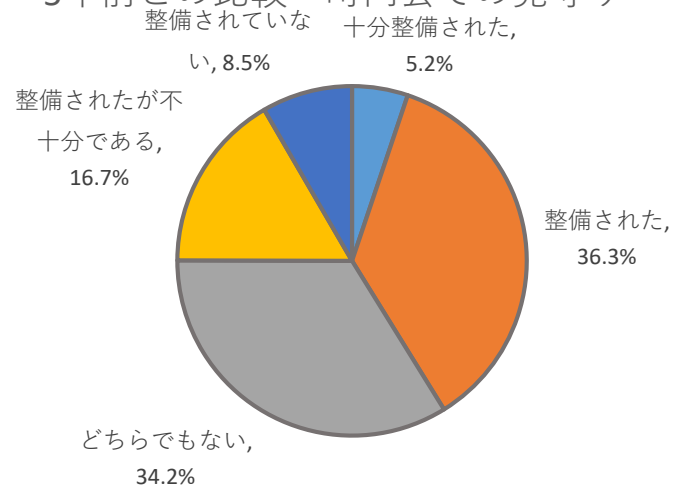
有効回答数 556

項目	回答数	割合
十分整備された	29	5.2%
整備された	202	36.3%
どちらでもない	190	34.2%
整備されたが不十分である	93	16.7%
整備されていない	47	8.5%

就労状況



5年前との比較～町内会での見守り～

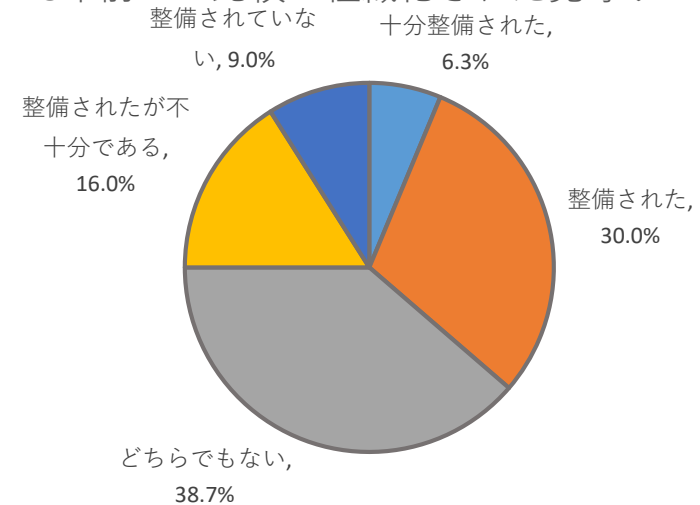


(2) 組織化された見守り活動

有効回答数 556

項目	回答数	割合
十分整備された	35	6.3%
整備された	167	30.0%
どちらでもない	215	38.7%
整備されたが不十分である	89	16.0%
整備されていない	50	9.0%

5年前との比較～組織化された見守り～

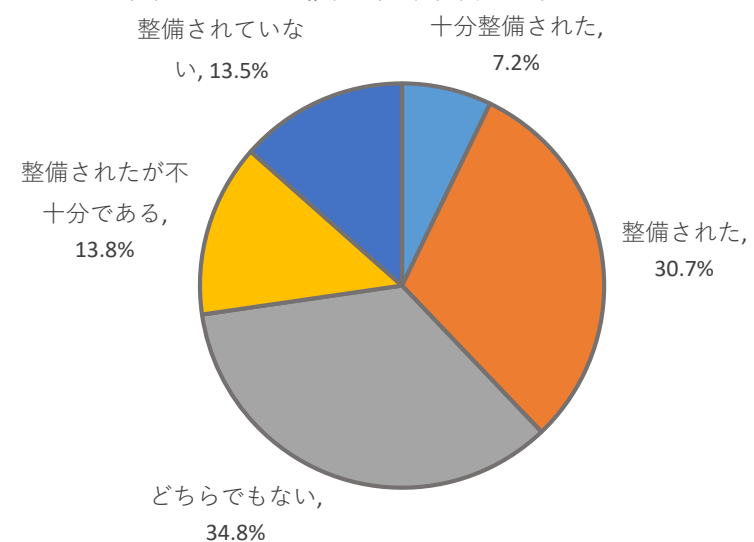


(3) 高齢者が日中集う場

有効回答数 557

項目	回答数	割合
十分整備された	40	7.2%
整備された	171	30.7%
どちらでもない	194	34.8%
整備されたが不十分である	77	13.8%
整備されていない	75	13.5%

5年前との比較～高齢者の集いの場～

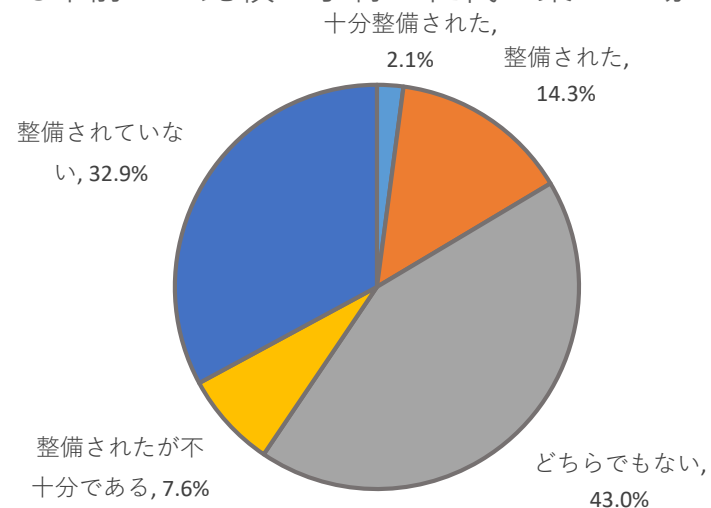


(4) 子育て世代が日中集う場

有効回答数 523

項目	回答数	割合
十分整備された	11	2.1%
整備された	75	14.3%
どちらでもない	225	43.0%
整備されたが不十分である	40	7.6%
整備されていない	172	32.9%

5年前との比較～子育て世代の集いの場～

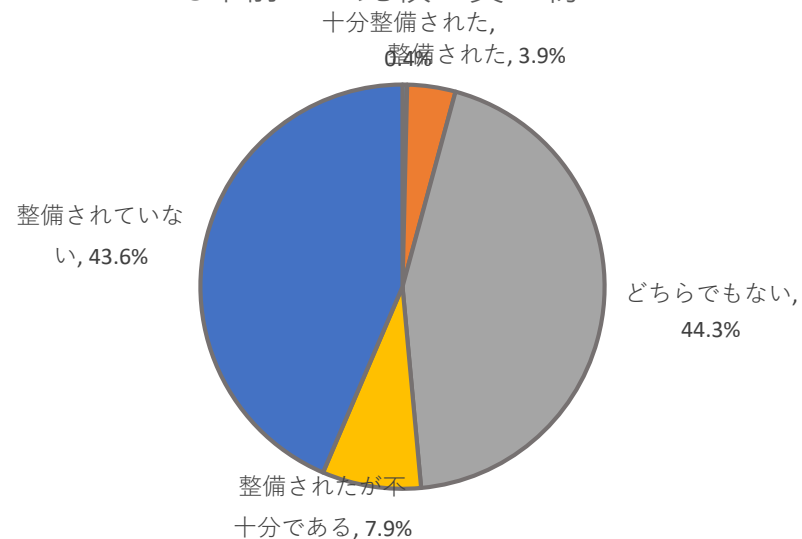


(5) 買い物を住民同士で支援する活動

有効回答数 544

項目	回答数	割合
十分整備された	2	0.4%
整備された	21	3.9%
どちらでもない	241	44.3%
整備されたが不十分である	43	7.9%
整備されていない	237	43.6%

5年前との比較～買い物～

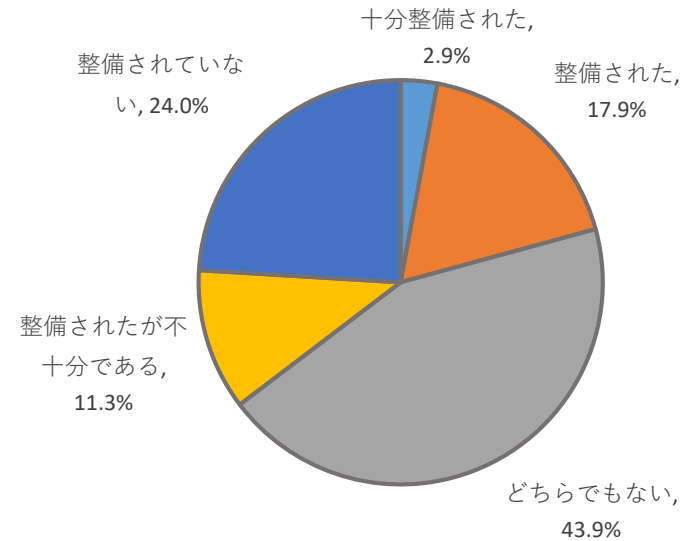


(6) 自主的な介護予防活動

有効回答数 549

項目	回答数	割合
十分整備された	16	2.9%
整備された	98	17.9%
どちらでもない	241	43.9%
整備されたが不十分である	62	11.3%
整備されていない	132	24.0%

5年前との比較～介護予防～

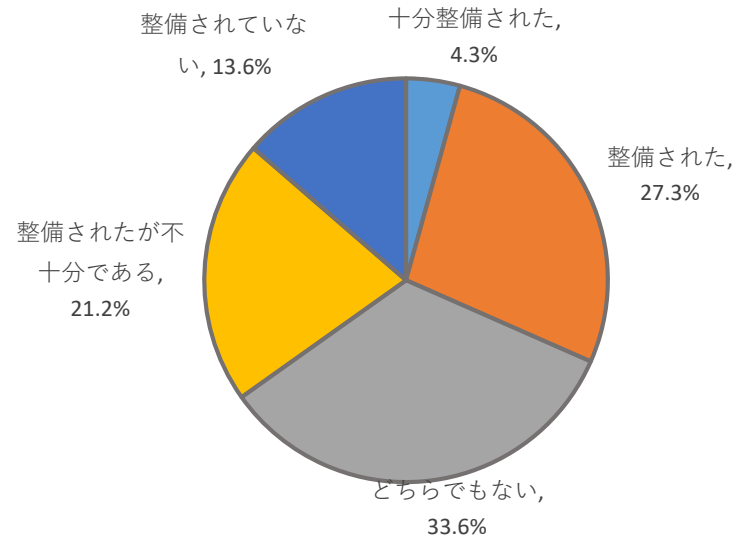


(7) 災害時の安否確認体制づくり

有効回答数 557

項目	回答数	割合
十分整備された	24	4.3%
整備された	152	27.3%
どちらでもない	187	33.6%
整備されたが不十分である	118	21.2%
整備されていない	76	13.6%

5年前との比較～災害時安否確認体制～

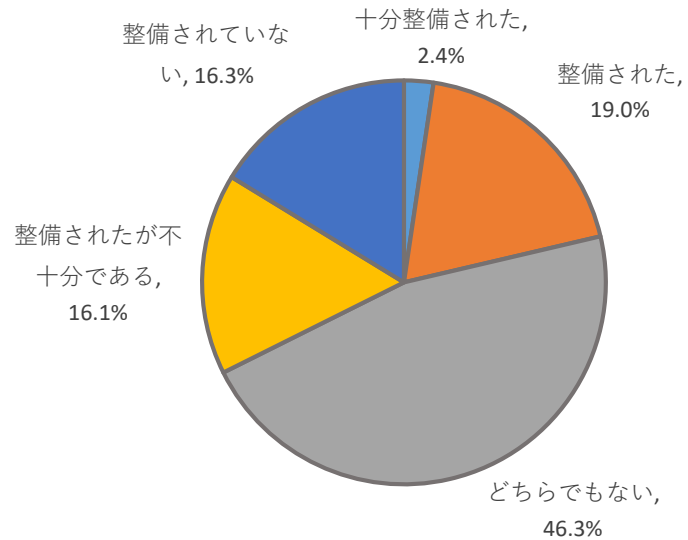


(8) 福祉について学ぶ機会

有効回答数 553

項目	回答数	割合
十分整備された	13	2.4%
整備された	105	19.0%
どちらでもない	256	46.3%
整備されたが不十分である	89	16.1%
整備されていない	90	16.3%

5年前との比較～福祉の学び～

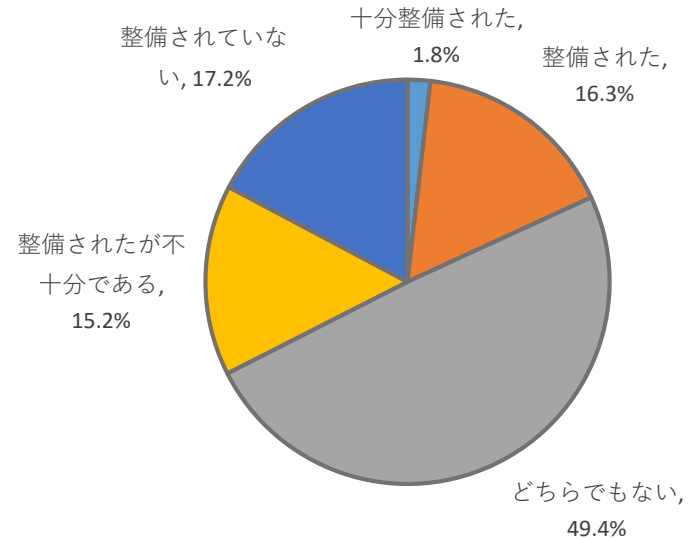


(9) 地域のことについて話し合う機会

有効回答数 551

項目	回答数	割合
十分整備された	10	1.8%
整備された	90	16.3%
どちらでもない	272	49.4%
整備されたが不十分である	84	15.2%
整備されていない	95	17.2%

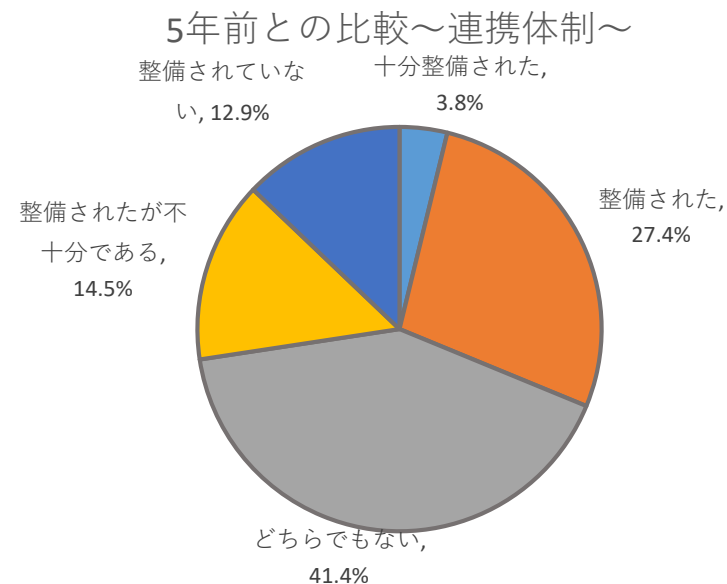
5年前との比較～話し合う機会～



(10) 地域課題解決のために関係機関との連携する体制

有効回答数 551

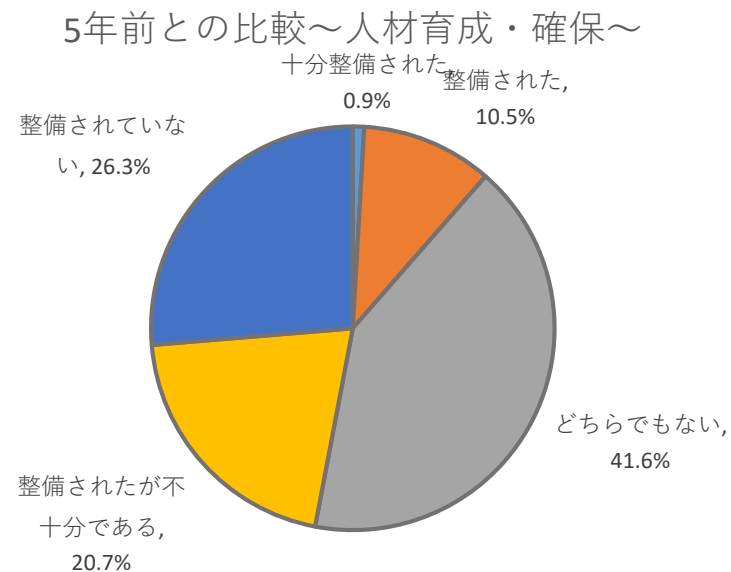
項目	回答数	割合
十分整備された	21	3.8%
整備された	151	27.4%
どちらでもない	228	41.4%
整備されたが不十分である	80	14.5%
整備されていない	71	12.9%



(11) 活動を共に進める人材の育成・確保

有効回答数 551

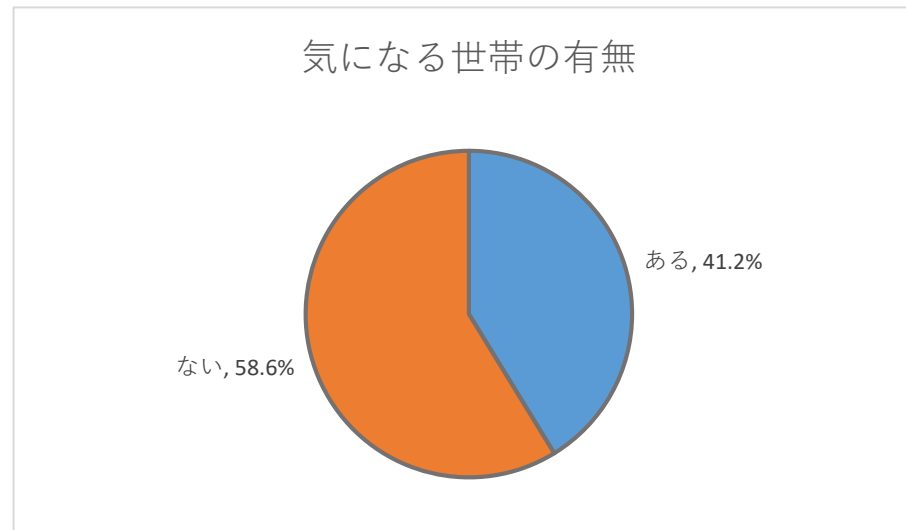
項目	回答数	割合
十分整備された	5	0.9%
整備された	58	10.5%
どちらでもない	229	41.6%
整備されたが不十分である	114	20.7%
整備されていない	145	26.3%



9. 身近な地域で気になる世帯はあるか

有効回答数 532

項目	回答数	割合
ある	219	41.2%
ない	312	58.6%

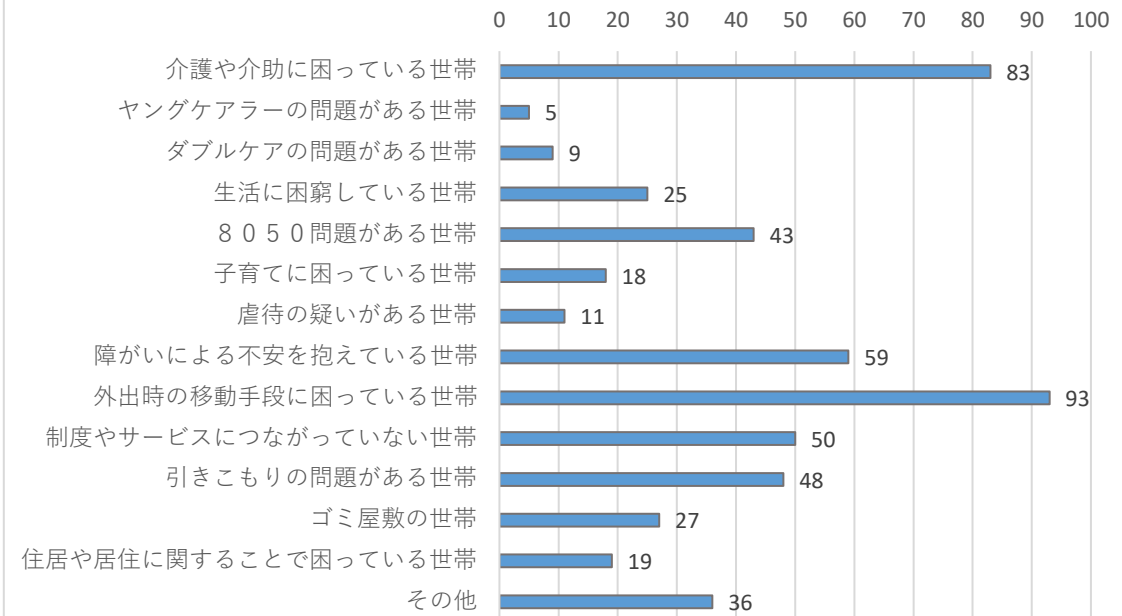


10. それはどのような世帯か

有効回答数 240

項目	回答数	割合
介護や介助に困っている世帯	83	34.6%
ヤングケアラーの問題がある世帯	5	2.1%
ダブルケアの問題がある世帯	9	3.8%
生活に困窮している世帯	25	10.4%
8050問題がある世帯	43	17.9%
子育てに困っている世帯	18	7.5%
虐待の疑いがある世帯	11	4.6%
障がいによる不安を抱えている世帯	59	24.6%
外出時の移動手段に困っている世帯	93	38.8%
制度やサービスにつがっていない世帯	50	20.8%
引きこもりの問題がある世帯	48	20.0%
ゴミ屋敷の世帯	27	11.3%
住居や居住に関することで困っている世帯	19	7.9%
その他	36	15.0%

気になる世帯の内訳



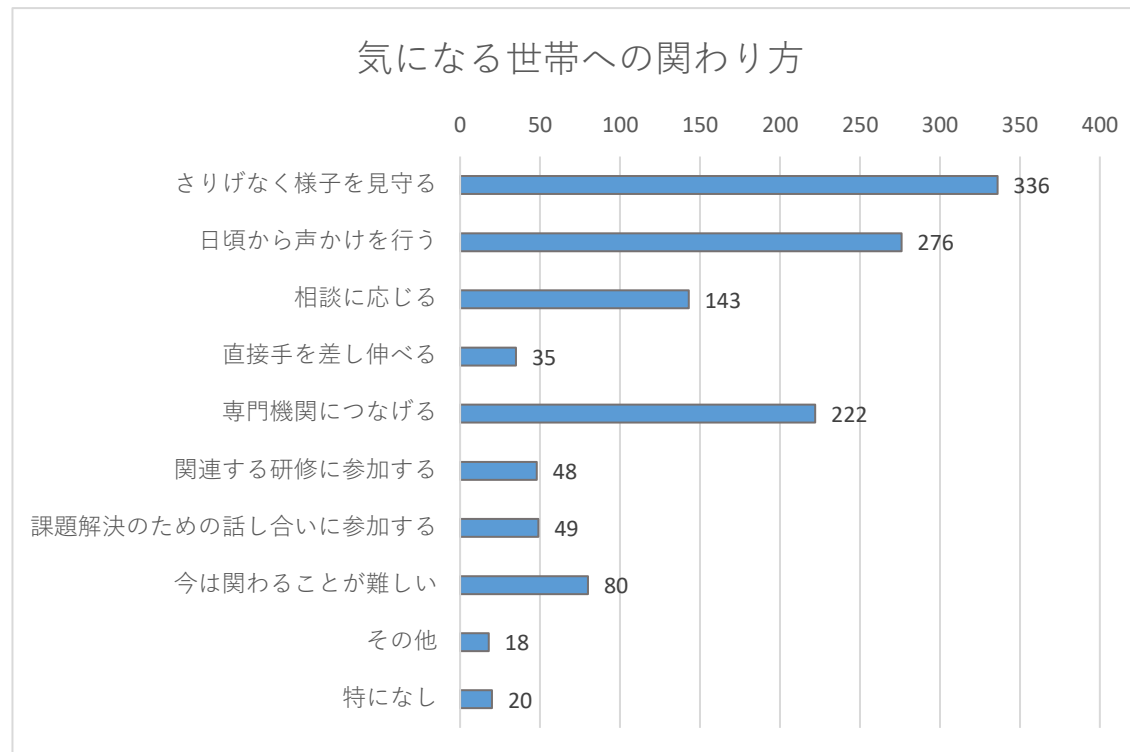
<<10.その他項目>>

市内に銭湯が1件もないこと。市としての取り組み、支援が必要と思われます。	老朽化した空家を取り除いてほしい
70歳以上の1人世帯	なかなか目に見えない、聞こえてこない所があるように思います
空き家の老朽と雑草	空家
親のどなり声、子供に対する虐待？	通院時のタクシー料金が、高い、放置空家、ゴミ、樹木の繁茂
高齢の一人暮らし世帯	空き家で放置されたまま、犬をリードをつけずに散歩する人
ノラネコにえさをあげている世帯	空き家に散歩途中犬のフンを捨てている人を見かけました
単身の高齢者が多い	
一人暮らしの高齢者	10を選びましたが最近地域包括支援センターと連絡していることが分かりました
ギャンブル依存に伴う困窮	高齢のためゴミ出しに困っている～現在は近所で協力し合っている
深いかかわりが無いのでわからない	1人暮らしの方の災害時や困りごと
日常生活上での不自由さ（自身でできない）	独居で認知症が進んできている世帯
高齢者の1人のみの世帯	
ネコにエサをやる方。飼ってはいないというが…	
短期間の住居、町内会未加入と空き家の老朽化	
独居老人	
高齢者世帯で夫婦2人共来訪者との意思疎通が難しい	
制度、サービスにつながってはいないが独居	
草刈り(自宅周辺)	
空家の木が生い茂り、線（電気、電信）に害を与えないか	
一人暮らし	
町内会に入会しないため、回覧板等での情報を伝えるににくい	
年齢40歳くらい、男性、短大卒業後一度も働いたことない	
高齢者の1人住まい	
お寺の問題で理解してない方がいると！檀家の事でその後のお金の事、檀家をやめれるのかと！	

11. 気になる世帯に対してどのような関わりが必要か

有効回答数 510

項目	回答数	割合
さりげなく様子を見守る	336	65.9%
日頃から声かけを行う	276	54.1%
相談に応じる	143	28.0%
直接手を差し伸べる	35	6.9%
専門機関につなげる	222	43.5%
関連する研修に参加する	48	9.4%
課題解決のための話し合いに参加する	49	9.6%
今は関わるのが難しい	80	15.7%
その他	18	3.5%
特になし	20	3.9%



《11.その他の項目》

近隣住民との情報収集をする

町内会⇒相談支援⇒社協⇒行政の連携した支援

むずかしい課題である

気になる世帯の状況に応じての対応が必要と思います

自身高齢者であるが今日のところ行動できる状態で自分中心の回答になる

古いゴミ袋での搬出問題

家族全員の考えを聞くことが大切だと思うか難しい

相談に応じたことがある

民生委員の方に話しておく

様子を見ながら声かけをする

関わるには自分自身の勉強が必要

コロナのため関わりは難しいが最小限度に声かけはするように心がけています。

必要に応じた対処をする

電話、自宅訪問する

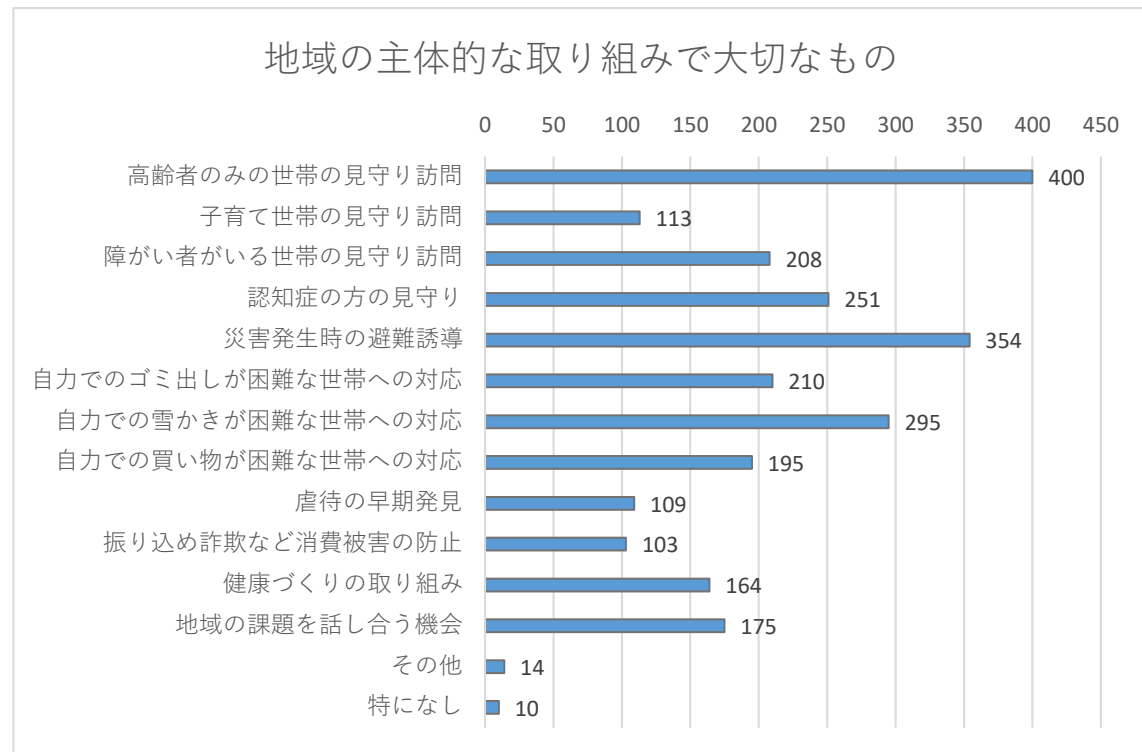
高齢者の1人暮らしの人が増えている

変にかかわるとよけいなことと言われかねないし。むずかしいですね！

12. 地域が主体的に取り組む活動として大切なものは

有効回答数 582

項目	回答数	割合
高齢者のみの世帯の見守り訪問	400	68.7%
子育て世帯の見守り訪問	113	19.4%
障がい者がいる世帯の見守り訪問	208	35.7%
認知症の方の見守り	251	43.1%
災害発生時の避難誘導	354	60.8%
自力でのゴミ出しが困難な世帯への対応	210	36.1%
自力での雪かきが困難な世帯への対応	295	50.7%
自力での買い物が困難な世帯への対応	195	33.5%
虐待の早期発見	109	18.7%
振り込め詐欺など消費被害の防止	103	17.7%
健康づくりの取り組み	164	28.2%
地域の課題を話し合う機会	175	30.1%
その他	14	2.4%
特になし	10	1.7%



《12.その他の項目》

高齢で1人世帯の見守り訪問

自分や大切な人を守って暮らせる地域を望んでいますし、信頼されることも大事なひとつです。

月一度のリサイクル品（新聞、雑誌、段ボール等）を集配場所まで運ぶのも重くて年々大変になってきています。町会で提案していますが古い役員ばかりで進展しません。そんなに難しいことなのでしょう。

全部大切だと思うがなかなかできない。お節介だと思われる！

困っているのかをさりげなく声かけする

食材ならびに出来上がった食事を届ける

ありのままのその人を認める、思いやる心をもって

すべて大切かと感じます

町内の高齢の集まりが少なく楽しい事がしていただけない町内で年寄の楽しみがまったくなくこの町内はどうなっているのかと思うことがあります。この町内の役員さんは高齢者を楽しませてくれる努力がない様に思います。私は若い頃は沢山お年寄りを楽しみをつくりました。しかし今の役員さんは努力がとても足りません。

近隣者同志がたすけ合い、支え合いながら生活をされている様子がみうけられます

そもそも住民主体の福祉活動に期待しすぎているのでは

上記の事項に対して一部特定のひとだけではなく広く様々なひとからの声を聞き、反映すること

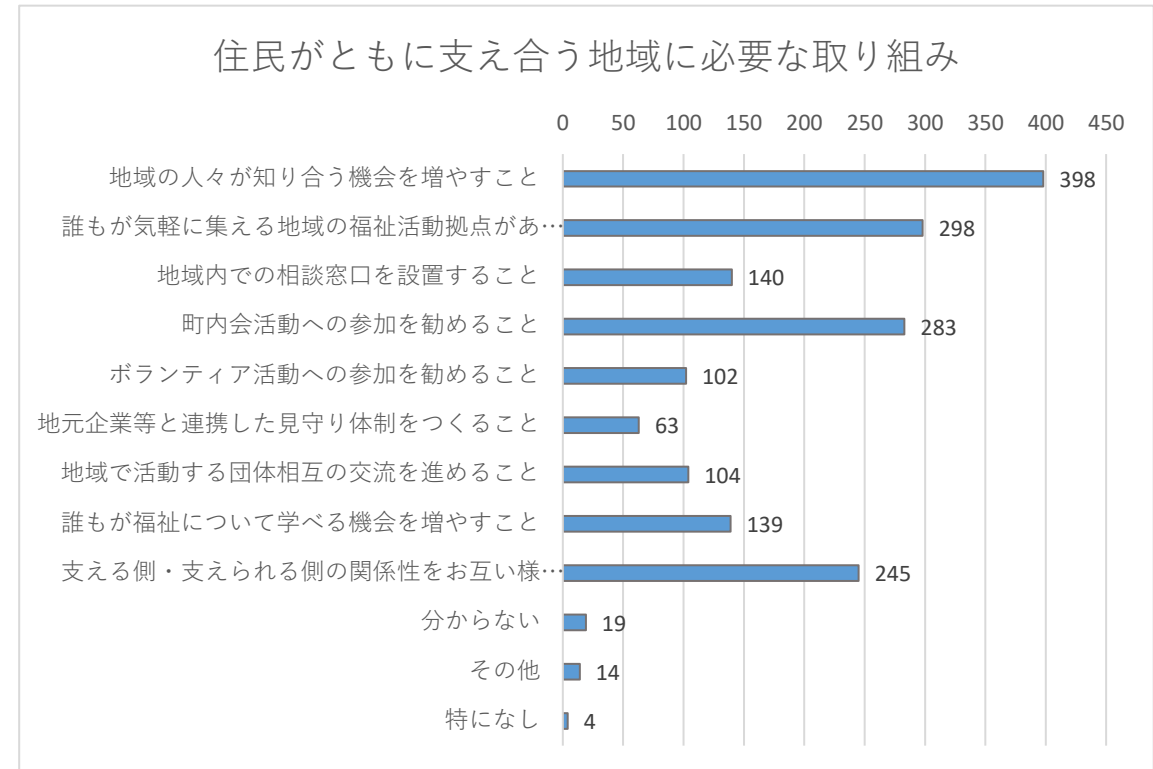
気持ちは十分ありますが自分自身が体の言うことを聞かない

近所同士で気軽に話し合える雰囲気作りが出来る事

13. 住民がともに支え合う地域を作るために必要な取り組み

有効回答数 585

項目	回答数	割合
地域の人々が知り合う機会を増やすこと	398	68.0%
誰もが気軽に集える地域の福祉活動拠点があること	298	50.9%
地域内での相談窓口を設置すること	140	23.9%
町内会活動への参加を勧めること	283	48.4%
ボランティア活動への参加を勧めること	102	17.4%
地元企業等と連携した見守り体制をつくること	63	10.8%
地域で活動する団体相互の交流を進めること	104	17.8%
誰もが福祉について学べる機会を増やすこと	139	23.8%
支える側・支えられる側の関係性をお互い様の関係づくりにすること	245	41.9%
分からない	19	3.2%
その他	14	2.4%
特になし	4	0.7%



《13.その他の項目》

ご近所同志助け合いながら生活されてる様子なので特にはないですね。

顔を合わす機会が多い程なんでも話していただけたと思っています。

あまりうるさくいうと嫌われるのではないかと求められたときに助言をしたら良いと思う。

次世代への活動への参加をすすめる

町会に入らず町会費を拒否される方に協力の必要性を勧める

手を差し伸べても「No」と言われる人にどうすべきか？「迷惑をかけられない」と思っている人

住民主体のボランティアをあてにするのはどうか？あくまでも自治体が汗を流すのが基本と思う。

ボランティア限界あり。資金が設置すべき

隣近所への支え、特に独居老人宅

現状はコロナのため難しいと思いますが落ち着けば(コロナ)積極的に活動していきたいと思います

地域の民生委員と町内会福祉担当との情報交換

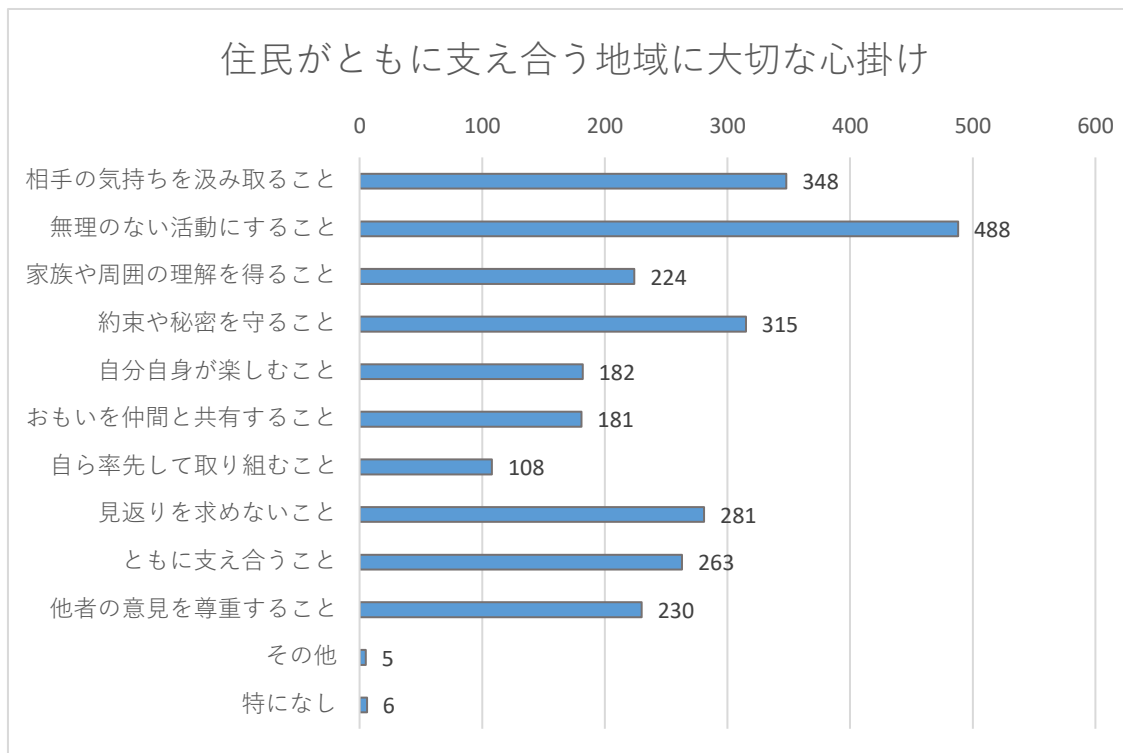
場を作っても参加してこない

話し合いにも本人が出てこないとなにしても話にならないよね

14. 住民がともに支え合う地域を作るために大切な心掛け

有効回答数 585

項目	回答数	割合
相手の気持ちを汲み取ること	348	59.5%
無理のない活動にすること	488	83.4%
家族や周囲の理解を得ること	224	38.3%
約束や秘密を守ること	315	53.8%
自分自身が楽しむこと	182	31.1%
おもいを仲間と共有すること	181	30.9%
自ら率先して取り組むこと	108	18.5%
見返りを求めないこと	281	48.0%
ともに支え合うこと	263	45.0%
他者の意見を尊重すること	230	39.3%
その他	5	0.9%
特になし	6	1.0%



《14.その他の項目》

お互い様と思うこと

プライドを傷つけないような手助けの仕方。気になる人はいるが成人だし年上だしあまり知らない人だし私が出て行っても…と思う。「市の職員です」などの方が窓口となって手助けするのがその方も受け入れやすいのかなと思う。「助けて」と言えない人の手助けが必要です。

他者に対しての関心を持つこと

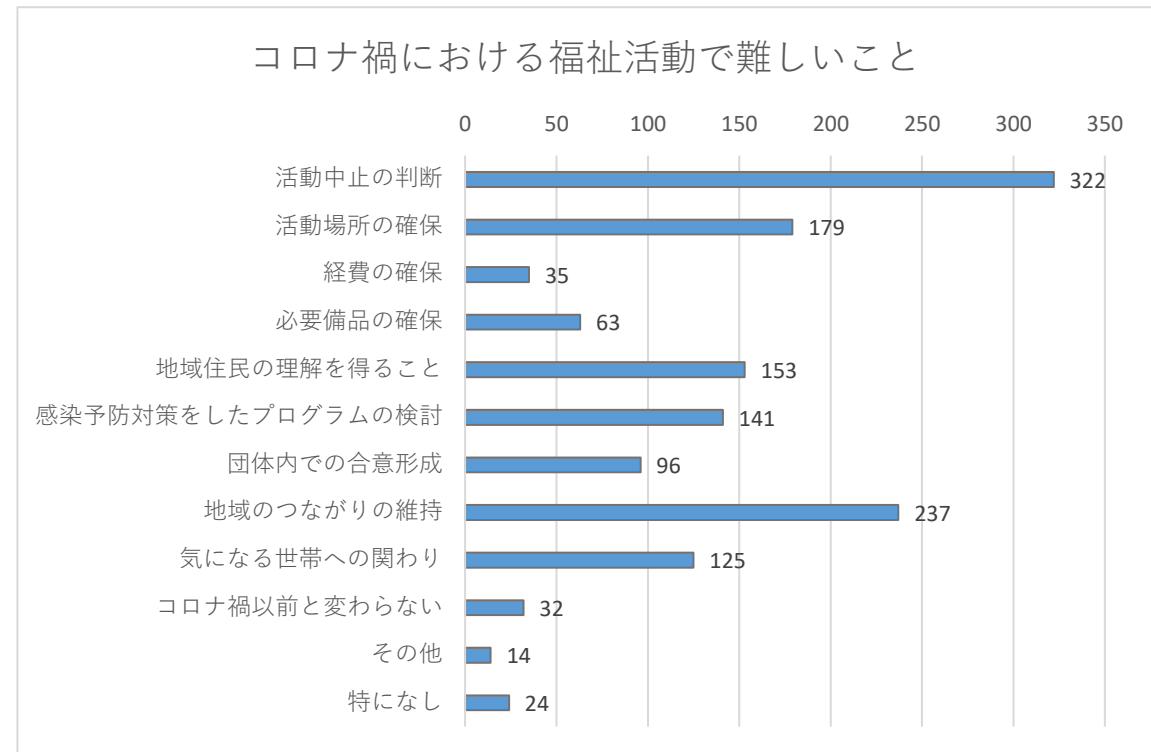
すべて心掛けが大切だと思います。○をつけた所は特に感じた部分です

町内会加入と周辺（近所）の理解

15. コロナ禍における福祉活動で現在も難しいこと

有効回答数 570

項目	回答数	割合
活動中止の判断	322	56.5%
活動場所の確保	179	31.4%
経費の確保	35	6.1%
必要備品の確保	63	11.1%
地域住民の理解を得ること	153	26.8%
感染予防対策をしたプログラムの検討	141	24.7%
団体内での合意形成	96	16.8%
地域のつながりの維持	237	41.6%
気になる世帯への関わり	125	21.9%
コロナ禍以前と変わらない	32	5.6%
その他	14	2.5%
特になし	24	4.2%



《15.その他の項目》

直接会ってサポートする際にコロナ禍ということもあり相手の健康状態によっては自分の家族への影響をも考えてしまうこともあり、コロナ以前のような積極的な気持ちにブレーキがかかってしまうこともあります。逆にコロナ禍では本来助けを求めたいがこの状況にあることによってそれがしづらい方たちも多いのではないかと懸念しています。

場所が狭いため密になることの心配

室内活動は密になる心配あり開けない。室外で行うストレッチ体操でつながりを保っている

さりげなく現況を聞いたりしてつながりを持つ

活動停止

ほとんどの活動ができない

9どのように関わっていくかが難しい

自分も段々と年齢を重ねるに伴い、周りの人への協力・支援がおっくうになる時があります

会議、会合、行事等が行えず人とのコミュニケーションが失われたこと

やはり会員月一か月に一回くらい会えない事

多人数で会議が出来ないこと

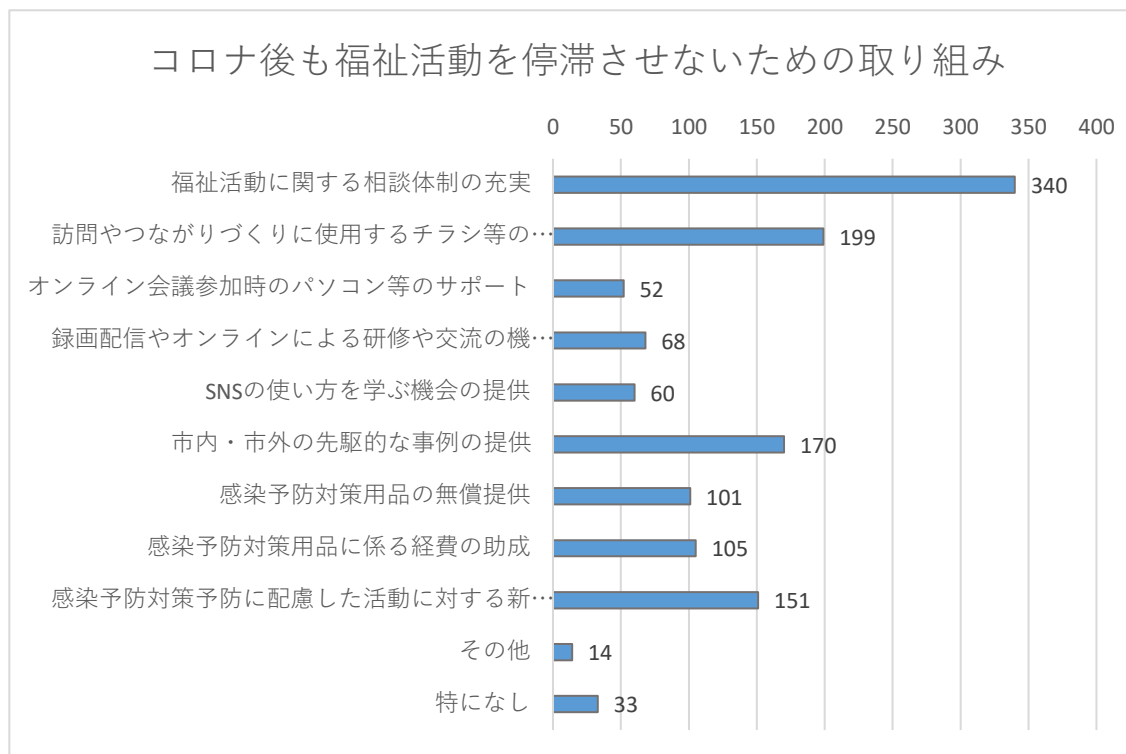
会場が狭いので集まることができない

機を待つ

16. コロナ終息後も福祉活動を停滞させないための取り組み

有効回答数 547

項目	回答数	割合
福祉活動に関する相談体制の充実	340	62.2%
訪問やつながりづくりに使用するチラシ等の作成	199	36.4%
オンライン会議参加時のパソコン等のサポート	52	9.5%
録画配信やオンラインによる研修や交流の機会の充実	68	12.4%
SNSの使い方を学ぶ機会の提供	60	11.0%
市内・市外の先駆的な事例の提供	170	31.1%
感染予防対策用品の無償提供	101	18.5%
感染予防対策用品に係る経費の助成	105	19.2%
感染予防対策予防に配慮した活動に対する新たな助成	151	27.6%
その他	14	2.6%
特になし	33	6.0%



《16.その他の項目》

独居老人がコロナ禍のような状況でもネットで交流できる環境づくり

声かけ

例年沢山の行事はやっておりませんが、町内会で実施されてる事柄の行事等は思う存分行いたいです。早くその様な時を願います。

規則等の柔軟な運用について

お互いあまり負担にならない様に…気軽に声をかけ合える環境を…できればいいなぁ〜と

TELするとか

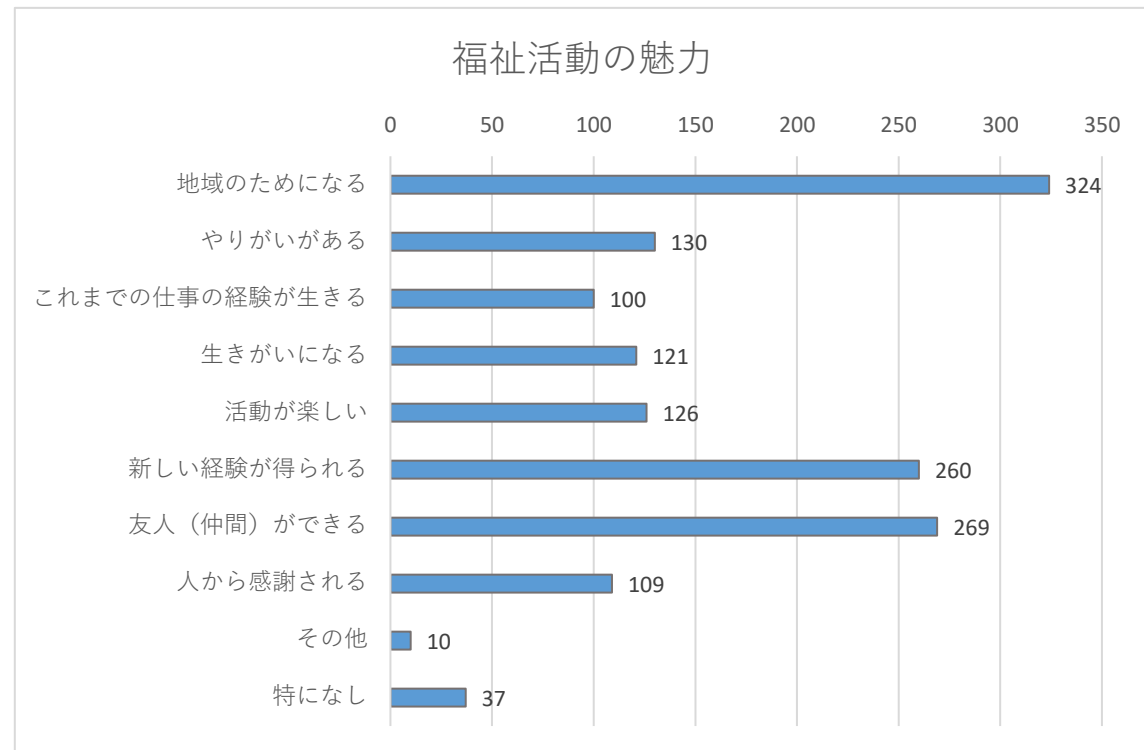
行政の指導により以前の活動を開始したい

わからない

17. あなたが思う福祉活動の魅力は

有効回答数 563

項目	回答数	割合
地域のためになる	324	57.5%
やりがいがある	130	23.1%
これまでの仕事の経験が生きる	100	17.8%
生きがいになる	121	21.5%
活動が楽しい	126	22.4%
新しい経験が得られる	260	46.2%
友人（仲間）ができる	269	47.8%
人から感謝される	109	19.4%
その他	10	1.8%
特になし	37	6.6%



《17.その他の項目》

地域のつながりができる事	体力づくり、気分転換
無理はしない	
地域の情報がわかる	
互助	
私自身は福祉活動は好きではないです	
いつかいく道	
自分が地域から必要とされている（気がする）	
プライバシーを守りながら困った時に助け合える状況にならないと魅力は生まれないと感じる	
自分も高齢者に近くなるにつれ、自分は何か役に立つことがあるのだろうかと思うこともあります。	

17-2. 魅力を感じた瞬間の具体的なエピソード

回答数

79

老人施設に花を届けさせてもらい（週1回）とてもよろこんで頂きました。ほんの小花なのですがこの様によろこんでもらい、私達も感謝でうれしくなりました。今はコロナで休んでいますが、又再開できればと思っています。

訪問したことに感謝されたこと（言葉にて）

いろんな方々との出会いはたくさんの発見と人として成長できることがステキと感じます

自分の出来る事で感謝の言葉を言われた時

「ありがとうございます」と感謝されると嬉しい

・会えてうれしいと声かけあった時。・利用者と話しでき、教えて頂く事もあり、会話が楽しみです。ボランティアに参加するのが楽しみです。

転入したてで知り合いのない中、ボランティア活動を通して人と関わる機会がもててありがたかった。

「ありがとう」の一言

施設の演奏ボランティアをはじめ、細々と演奏活動を続けようと思っていたが室蘭民報で取り上げられたことを機に、イベント演奏の機会を多くいただくようになり、それが演奏のレベルアップにもなった。

まごころレターの配布に常に対面での手渡しはできないが対面した時の会話は「ありがとうございます。いつも楽しみにしている」との感謝の言葉

見守りしているようで見守りされている”お互い様”が多く感じられます

顔が分かると声をかけやすい

各ボランティアの集まりがあった時、知らなかった人たちと会話が出来た。それ迄経験がなかったことに加われた時、自分も出来るんだと思った。

顔見知りとなり気軽に挨拶を交わせる、又会話が出来るようになったこと

買物支援時に利用者さんが見つけることのできなかった品物を探してあげられたら大変嬉しがってくださり、私の方が温かい気持ちになりました。

毎朝6時30分のラジオ体操に行くと学田通りの草取りをしている老人がおり毎日ご苦労様ですという朝寝ているより仕事をしている方が楽しいから健康のためですといわれました。（老人の生き方→人の為でなく自分の生き方）
各々の認知症の方々を見守るうえで次は自分の番になるかと悩める日々です
活動の善意を逆手に取り苦言を言ってくる若夫婦の関りを止める
町内会に老人クラブが昔より存在し独立していたが3年前人員減、役員の成り手などと解散も考えていたようですが、町内会組織に組み入れ、生活福祉部の女性全員入会と活気づき新規加入者も増やし特に1人暮らしの女性は喜んでいるが男性はいまいち入会難しい。老人福祉対策として今後内容も検討し継続していきたい。
病院の受付で分からなくて困っていたらボランティアの腕章をつけた方が色々教えてくれ助かりました。こういう活動もあるんだと思いました。
たまたまどこかで出会ったときにお互いに手を挙げて挨拶しあえる、たとえ無言であっても信頼してもらっているという嬉しい実感を感じるものです。
1.1人暮らしの人を地域のイベントにお誘いした時、とても楽しそうに会話やゲーム等をしてとても生き生きした姿を見た時です。2.地域のイベント（ふれあい会食会等）の案内状を持って行ったときに、とても心待ちにしてみましたと話しかけられたときや、電話で申し込みがあり「温泉に入ったりするのが」ととても楽しみですと言われた時などです。
なし
通常の訪問活動の中で、ご本人からさりげなく困りごとを聞き出し少しでも役に立つ情報提供や関係機関への橋渡しができてご本人の満足のいく結果に繋がったこと
頑張っている方に出会えた時は自分も負けてられないと刺激を受けます
私も高齢者なので福祉活動などで友人を作ったりお互いにたすけあいが出来ると思う
知らなかった人たちが集まり、次に買い物で出会ったときにお互いに”元気”と名前もまだわからないけれど、声をかけ合えるという関係が出来たことはうれしいし、この人たちにとってよかったね、知り合いができてと思う
人との交流の中で思いがけない人の良さや行動を知った時は仲間意識を本当に強く感じ自分もしっかりと頑張る思いを持つことができたことです
他人に声を掛けられない時代になってますよ…

提供した時、相手がすごく喜んでくれたこと。自分が楽しいことが相手に喜ばれると自分もすごくうれしい。
耳鳴りがするけれど病院では「もう年だから」と何もしてくれなかったという90代の男性に整膚をし、自分で行う方法を教えました。2日ほどして電話があり「気が付いたら耳鳴りが消えていた」と言ってもらった時です（のぼりんにて）
活動内容を誉められたり期待されたりするとやってきたことがむくわれたようで気分がよくなる
住民からの（大小に関わらず）要望について、行動したり調べたりして叶った時の達成感に生きがい、やりがいを感じる
なし
なし
・町内でのトラブル解決・となりの木が物干しざおにかかっている物を干せない（切ってもらった）・高齢者（女子）1人暮らしに気を付ける 通路上に木カブ（除去）・高い所の作業、重たいものの整理等・ゴミステーションでのトラブル防止
演奏曲目によって笑顔での拍手や涙を浮かべて聞いてくださる姿
自分の趣味が他の方たちの喜びになることが一層の楽しみになっている
なし
私もそうですが誰かに話すこと、聞いてもらうことで安心し精神状態が前向きになると感じます。親友も年齢とともに特に車の免許を返納してから外に出なくなり私が行くと何度も同じ話をしますが、とても喜んでくれ、半日くらいは話がつきません。話を聞いてくれる人がいるのは元気が出ます。
サロン活動の再開を色々な人に問われ道端や買い物中にも”待ち遠しいよ！！”とわざわざ声を掛けてくれる人が多い。～町会の方針で未だ難しい状況
各家庭の事情を把握していると何かあった時にすぐ行動を起こせる
地区、町内会によって活動があり、各情報へのベクトルを合わせる事60%程度で（各町内会活動）統一した方法で実施すべき
先日とある病院の待合室でサロンの会員さんとバッタリ出会う。暫くとマスクなし、大声で話しかけられる…私はすかさず今はコロナ禍なのでマスクの着用とおしゃべりはつつしもうね…と話したらにっこり首をすくめてあーそうだった…と笑顔、私もホッとしました！サロンでの再会待ち遠しい…とまた笑顔
特にありません
特になし

数年前に同じ町内会の方と話す機会があり、その方は体調悪くて足が思うように動かせない状況であった。その方からいろいろ質問があり私の職業の経験をもとにひとつひとつ説明し話し相手になりました。今は症状も落ち着いているようで自分の知っている知識が発揮でき今は地域の健康づくりのため少しでも助言出来たらなと思いました。

福祉訪問時において季節に応じてお疲れ様の言葉にやりがいを感じる

特になし

ふれあいサロンを月3回実施。会員の顔合わせが出来ている。情報の提供、外部より講師を呼んで講話をしてもらっている

仕事と家庭の往復でこの地域に暮らしながらあまり隣近所との付き合いもなく暮らしていました。町会役員の方から声を掛けられみんなそれぞれ大変な思いをしながら地域のためにやっておられることを知り、微力ながらできることがあればと役員をやっています。感染対策をしながら各区長さんの情報が共有出来たりすることが安心します。

年を重ねるごとに人は自己中心になりがちですが、訪問をつづけている中で人の苦しい心を数多く知ること、それに対して相手に感謝されることがとても嬉しく思うことがあります。○3つの内のことをまとめて申します。

スーパーなどで顔見知り、挨拶することが増えた。町内会において様々な知識を持っている方がいて相談することができた。

サロン会場への行き帰り等でも楽しそうに話しながら又サロンに参加しない町内会員とも話している。

お祭りの手伝いで年上の方と顔見知りになり買い物に行って声を掛けるようになった（安否確認）

裁判官に褒められた（自己破産手続きをしてあげた）

自分たちの活動が終わって充実した気持ちになれる

自分の為が地域の為になっていく。知ることによって提供できる力に気づく。足りないものに気づく。その身になって考えるきっかけになる。障害児者とのふれあいの中でしか感じられない体験がありました。

仕事の中で、情報伝達手段でSNSを使用する機会が多々あり、人より比較的詳しく理解していたのでネット環境など必要としている人に教えることができ、大変喜ばれたことがあります。

H6年9月、町内会ディスコダンス、毎月週2回23人に現在も教えています。現在平均年齢79.9歳です。毎年登老連老人園芸大会で踊りを（ダンス）披露しています。5～6人ですが、緊張感・達成感を味わい楽しみにしています。

新しい会員と仲良くできる

コロナ禍により長期間家の中に閉じこもりの生活をしている人たちが多く戸外でできることを考えて参加し易い内容で行事を実施したところ久しぶりに仲間の皆さんと会えたことでとても喜んでもらえた。
・コロナワクチンの予約で7～8名頼まれてとったのですが夜7～8名の所にとれたか電話したところ、つながらなくまだとのこと。QRコードでスムーズにとれたこと報告すると「私達のことよく思い出してくれたね。ありがとう。何度電話してもダメで疲れ果てた」とのこと。前日訪問していたが頼まれなかったので…。・ボランティア活動は「ありがとう・おかげさま」の言葉でエネルギーをもらいます。本当は人の為ではなく、自分のためのボランティア活動かもしれないと思い始めています。
登校見守りで10年、子どもの成長が嬉しい。1年生の時、歩道に寝ころび泣いていた子も中学生になると礼儀良くあいさつ（特にスポーツをしている小学生も含め）
顔も知らない人たちと知り合いになり助け合ったり指導を受けてる
？
”まごころレター”を楽しみに待っている方がいる。「ありがとう」言葉で声をかけられる。
福祉部員年1回依頼に行くが6～7年前までは断られること多かったが、今ではとても協力的。地域での福祉活動を理解している方が多くなったのかな？サロンの再開ができません。皆さん「まだですか～？」と待っているようです。うれしいですね。
新川公園でグランドゴルフをサロン活動として始めました。パークゴルフですと遠くなり自動車での移動となり、使用料金も必要となりますので！公園ですと歩いてくることができます。コースも自由にレイアウト可能なのです。月曜日に実施中、毎回10名以上の参加あり、少し汗が出る程度でほど良い運動となっている！（取材は受けません）
・魅力というよりは、活動の中でいつも声を掛けてくれるだけで安心するとか有難いという風に言われることもあるので、障がいを抱える家族を持っていて同じ境遇である者同士、何かでつながっていることが必要なのかな？と思い活動しています。（障がい児者団体なので）・また、重い障がいを持つ子ども（成人）達が笑顔で楽しそうにすると私たち自身も嬉しく、また更に笑顔にしたい、楽しい活動を見つけない！と思えるから。
・マチの花壇の水やり、手入れをしていると声を掛けられます。「いつもきれいですね」「ご苦労様」など思わず笑顔になります。・永く続けることで花の知識が増え、どんどん花にはまっているのに気づいたとき

コロナワクチン接種で独居老人宅でのサポート活動で多くがかかりつけ医院でしたが、3人の老人の予約の手伝いができ、その後接種後安心した旨の連絡があり私もホットして、また家族とも知り合うことになりました。

短時間の廃品回収作業に10人くらい参加している。お互いのあいさつ、身近なコミュニケーションが交わされて相手を思い気遣うヒントが生まれる楽しい活動になった。

若い夫婦が二階に、息子の母親が下に住んでいる同居家族。母親が二階に上がってくるのを嫌い、階段を外した（自分たちは外に階段をつける）。母親70代、友達もなく、毎日酒を飲み寝るが寝小便で寝床が汚れる…息子夫婦に話をするが折り合わず。市のヘルパーさんに掃除を手伝ってもらう。住み込みで働いている息子に連絡…新しい布団を購入してくれた。病院に相談、入院させてもらう。その後息子よりよく処置してくれた、本人も酒もやめ病院で安心している、そこまで気が付かなかったとの挨拶あり。自分としてホッとした一事でした。

困ったことが本人に起きた時、すぐ相談の電話があったり来てくれて解決に向け、一緒に考えられる時。また、解決できたときに喜びました（オレオレ詐欺の電話があり、すぐ行って再度かかってきた時に私が本人に成りすまして断りの電話対応をしました）

買物に車を出して素晴らしいと思いました。東団地～アーニスまで買い物する人を送迎して良いですねえ～

見守り活動の中でもう来なくていいよと言われた福祉委員もいるが、福祉委員を対象者に対し複数配置したことによりお互い活動を共有し、励まし合って頑張っている。その活動の中でおしゃべりを求めている方、相談してくる方がおり、やりがいにちょっとだけつながっている。

今まで会えることのない人たちと出会えたこと

今迄、一生懸命ボランティアに精を出してきましたが、コロナで休んでいるうちに自分自身がボランティアされる年齢になっていたことに気づき、淋しい気持ちになりました。今度は同年代の人の気持ちが分かると思うので、寄り添っていけるように努力していきたいと思っている。

特になし

特になし

遠くの病院へ行く時（毎月）タクシー代が高く、歩いてバス停に行くにも遠いので大変な人がたくさんいます。タクシーも夜遅いと頼めないの
で何か良い方法がないかと聞かれますが、困っています。バスはステップが高く足が上がらなく車は階段があり登れない人がたくさんいま
す。

近所への声かけ見守り、一日一回声かけ運動

私の住んでいる町内会は高齢の方が多く、何をどう…と聞かれても大変難しいですが、マスクを外し大きな笑い声で安心な気分で会話できる事
を楽しみにしております。答えにならなくて申し訳ございません。

コロナウイルス感染にてボランティア活動しても短時間にて会話することが少なくなり、少し淋しいですとの声かけありましたね。1週間に少
しですが1人暮らしの寂しさが楽しい時間になってくれたらいいですね！！

先日知人の母親の葬儀に出席しました。渡された「お礼の言葉」の文章に感銘を受けました。"いい人生でしたね"との標題からなる文章です
が、もちろん別れは寂しいですが私たちが育ててくれたこと、自分の仕事にも寄り添い手伝ってくれたことに感謝していること、子供が親に感
謝すること、当たり前ですが忘れかけている人が多い様に感じる。時勢は寂しい。

高齢の世帯が多く、福祉活動に関する情報などが伝わっていない部分も多いと思うので、総合的な窓口があり、そこからさらに必要としている
サポートへつなげ、そしてそれをわかりやすく周知することで必要とする人とサポートする人が早く出会う、もしくは必要としている情報をい
ち早く得ることができ、高齢者も地域に対する安心感につながるのではと思います。

これからも感染防止のために、人が多く集まることはできなくなっていくと予想される。ふれあいフェスティバルや発表会のようなイベントはライブ配信等を活用して集まらなくても多くの人に見てもらえるようにするべきだ。しかしながら、やはり直接お会いして関わることの大切さも強く痛感している。広い場所の確保などでなるべく多くの人に集まってもらえるようにすることも大切だと思う。

コロナの影響でサロンサポーター研修が中断されているが、この研修を形を変えての継続実施。支える側の高齢化をどうするのか、妙案は。

地域座談会は本来皆様の意見や情報を得るための手段であるはずなのにいつの間にか座談会を開いて福祉活動をやっているかの様に見せるための手段となっている。本末転倒である。基本に立ち返り社協としての活動、町内会としての活動を見直すべきである。

私の住んでる地区で近所の人が威嚇（いやがらせ）をしてくるのでなんとかしてほしい

体力も必要ですので若い方の参加が必要だと思います

日頃福祉活動に携わる町内会役員や民生委員児童委員の人達も高齢になり体力や気力の衰えも否めません。役員の若返りは必須ですがなり手が育たないのが現状です。もっと地域に入って福祉相談が気軽にできるお助けボランティアみたいな組織があればと思います。

自分は年齢を重ねてきて、周りも高齢者が多くなっています。活動に誘ってもなかなか参加してもらえない。「出掛けてみれば楽しいのに…」と思っても。振り返ってみれば私もそうでした。今は続けている活動が楽しいから出かけているが新しいことには入りにくい。（性格的な物があると…）

何か一つでも実行してほしいです。

色々な計画が有ると思いますが知らない人が多数いるようなので広く多くの方に伝えられる方法が見つかると思います。

大げさに考えず、沢山の事を期待せず、ほんの少しでも楽しくできればいいなあ〜と思う

町内会総会等で社協3分間スピーチでその時点で最も知らせたいことについて伝達する（時間を守り内容を充分検討）

きずなの方向性が余りわからない

民生委員との情報交換を年1~2回程度は町内会福祉担当と開催必要性感じ、以前より要望しているが民生委員の個人情報の意識が高く実現しない。民生委員は準公務員のため秘密順守優先で仕事内容も不明。町内会との連携は高齢化時代には欠かせないと思います（逆に町内会情報は伝えなくなる）

困った時に外向かなくも身近に相談にのってくれる方がいる

我町内会（特に役員）は福祉について自戒の念を込めて言えば無知・無理解の素人集団であると痛感している。専門家のいる地域包括支援センターや社協との目に見える連携や協力体制が日常的にいかにつくれるかが町内会として最大の課題である。私達の意識改革と行動が必要だ！！

なし

始まりはあいさつから、そして相手を知ろうとする努力。行動できる人を増すための人選、これが必要ではないかなあー

終の住家を当市に求めて40数年、終生自分の家だと願って自分なりに筋トレ、脳トレに励んでいます。・健康寿命を延ばす筋トレ、脳トレetc.の教室・パソコン、スマホを使っの教室。コロナ禍で厳しいとは思いますが専門の方のアドバイスをいただいて参考にしたいと思います。よろしく願い致します。

福祉関連の研修参加や資格取得を積極的に支援することや法律や金融をはじめとした幅広い知識の習得を支援することで、ボランティア個々のスキルアップを図っていくことが必要です。老若男女かわらず頼れるボランティアの核をたくさん作り、各ボランティア団体へのアドバイスや直接運営スタッフとなり輪を広げていくことも必要です。人口減や高齢化の急速に進むこの数年は大きな局面を登別市では迎えています。

今後起こるであろういろいろな災害に向け、より身近な関係性・細やかな関係性の構築が大切かと思います。・希望的事業より基本に立ち返ったシンプルプランを充実させた方が良いのでは。

地域の支え合いが求められているが両方とも高齢化の時代が進んでいます。若い方を取り込んでの活動が必要になってくると思う

市役所の退職者に活躍してもらいたい！町内会の役員もあまり引き受けてもらえない…。80歳を過ぎてからのボランティアはむりですヨ！

町内会活動は近いので参加したい気がするが役員でもないし気が引ける。そして魅力がある活動が感じられない。コロナが落ち着いたら楽しい内容のものをボランティア活動しているグループと連携していけたらいい。

事業がたくさんあって解りずらいので現在行っている事業を一覧表にしてみようと活動しやすい

実は私には姉が3人います。もう92歳、90歳、88歳といつどうなってしまうのか毎日気がかりで又コロナで毎日が大変な日々を送っています。そのようなわけで何もお手伝いできませんので申し訳ありません。お許してください。（そうゆうわけで何も出来ないのでゴメンなさい）

福祉活動を進めていく基本は指導者の考え方にあります。各地域の指導者（町会長等）に対し、行政の特権を生かし強制的に説明会・講演会等で指導してほしい

きずな計画には人材が必要です。女性はそこそこいますが男性の役員が少ないのが現状です。ひとり何役もしなければなりません。

今後計画を進めていくうえで私感を述べさせていただきます。1. きずな推進委員会の組織図等を明確について、委員会の組織図及び委員が所属する部会が見えてこない、さらに活動内容聞こえてこない。2. 災害時の連絡網の整備について、平成30年（2018年）9月6日3時07分発生北海道胆振東部自身は記憶に残っています。ブラックアウト、地域は街灯もない、信号機の灯りもない暗闇、不気味な街。初めての体験で一番必要事項は連絡であります。当市において市民への周知する連絡網が未整備であります。次々連絡網考えました。災害発生⇒市役所⇒連合町内会⇒各町内会、市役所⇒社会福祉協議会⇒関係団体。町内会での定期的な高齢者、障がい者、の見守り活動および町内会と民生委員児童委員との連携が必要であり、災害時に日常活動が発揮されると思います。

高齢化社会を迎え、健康寿命を延ばし介護を受ける期間を短くすることが大事になってきます。いつまでも自分の足で歩ける体力を維持するため各町内に1カ所でも皆さんが集う場所とボランティアによるお茶のみ、おしゃべり、かるやか体操等する場所と活動リーダーの養成する必要があると思います

福祉委員のなり手がいない。ボランティア活動を積極的に実施しない

誰も置き去りにしない。SDG s の目標の（3）すべての人に健康と福祉を参考に登別市のきずな計画を策定していただきたい。

近所同士がお互いを見守る。若い人にもできるさりげない気遣いが第一歩だと思っています

社協だよりで8校区地域課題の違いを独自のイラストで紹介。①上半期8校区ごとの地域課題を重要項目2～3程度選択し、実情の対比イラストを作成。②下半期8校区ごとの実践事例を成果物の対比イラストを作成・過去の文章を羅列する方法からできるだけ市民に分かりやすい目につく方法に知恵を出す。

町会に入らない人が増えている

理想ではなく、相手の立場としてどうすれば活動して喜ばれるか、必要なのか何か、具体的に出す

当町内会では役員全員が何らかの形で福祉活動に携わっています。サロン活動、地域の見守り活動、小中学校関連の行事、防災関係、ふれあい夏まつり、敬老会など各行事を行っています。でも各個人からの要望のゴミ出し、除雪、除草、買い物などの件は私的に出来る範囲で行っていますが全体での取り組みはしていません。身近なことから一つずつ考えていかなければ…と思います。

特にありません

町内会というボランティア活動の基に福祉活動があるのでまずは次世代の役員確保が最も重要です。

特になし

他人に対しての思いやり、支え、協力体制が基本と思う。これを底辺としてネットワークづくりを希望します。町内会が地域住民に福祉において何をどのようにしてくれるのか皆目わからない。

登別は福祉のまち観光のまちで知られていますが多様化時代のなか明日への活動に向けてひとりひとりが声かけと挨拶のできる街づくり「声かけと挨拶のまち」の活動を展開してはどうでしょうか。（挨拶はあたり前ではあるが活字化してさらにきずな心を盛り上げる）その手段として①ハンカチorタオル制作：きずなロゴマークを入れて見守り声かけ挨拶運動の文言を入れる②発出する文書書類の表紙などの一隅に見守り声かけし合ひましようの文言を入れる。①②にあたっては文字体位置文字色など今後検討課題としてはどうでしょうか。

コロナ禍がおさまりましたら母子食堂の計画を考えております

認知症の早期発見などはやはり近くにいる人々、地域の支えが必要になってきます。そのためには地域のつながりがとても大事です。なかなか早期発見が難しい現状です。町内会でのサロン、または活動が大事になってきます。（今はコロナのためむずかしい）町内会の役員として月2回独居高齢者の方を訪問しています。もっともっとお話ができる機会があればと思っています。

あいさつを心がける

私のきずなの一つとしては高齢者の人と色々な昔の思い出、また病気のこと、買物のことなど小さなことの話聞くことが私のきずなの一つです

町内の福祉役人も高齢者の方が多く、新しい活動を試みるも困難なことが多く、若い世代の参加を推進が必要かと、立ち上がってくれるにはどのように行うかが重要であります

要援護者の共有可否。民生委員児童委員・町内会・老人クラブ等の連携対応は？

「きずな」とは地域住民のつながり（結びつき）と思っていますが、特に高齢者が増加の傾向にある今日、そこで各地域には高齢者のつながりを多くと考え「老人クラブ」の設立が大切ですが市内の実態は逆で解散が増加しています。そこで各地とも町内会、民生委員、老人クラブの三者の連結が大切だと思います。その窓口として社会福祉協議会が「きずな」の観点からお願いいたします（講習会、研修会等を）

町会活動は会員が参加して楽しめる行事が大切だと思います。町会役員が高齢化しており若手役員の発掘していかなければきずな計画でよいアイデアが生まれてこない

市民ひとりひとりがむこう三軒両隣の信頼関係で支え支え合える関係があれば災害が起きても困ったことが起きても話をすることができ、助けられると思う。人と人との関係をいいものにするような活動が出来ればなあと思う。

小地域ネットワーク活動の充実 1. 全町内が取り組む 2. 活動内容の見直し 3. 活動内容の実績によって市民の状況把握する

役所のアリバイ作りに使われないこと

地域の人々との関わり合いの範囲が分からない。体力的にどこまでサポートできるか不明である。

かつて30代が占めた町会活動も今は70歳代の高齢者の町会となり活動も先細り、どのようにしたら沢山の人が集い楽しい時間を共有することができるかが今後の課題で「公」の機関を利用しながら講習会を開き人との繋がりを広める

地域的にも私的にも年々高齢化が進み、若い人たちへの参加が難しい。継続的なつながりで共に活動を進める。次へつながる取り組みを。

災害時の避難の方法（誰に声を掛けて逃げるか）

高齢者が多いのでオンライン会議等が出来ない状況であるのでオンライン会議ができる環境整備をお願いしたい。

地道に気長にゆっくり進めてゆくのが良い

自分自身が健康であることが総ての基本だと思っています

参加してほしい人ほど参加してくれない。その人たちを動かすのはできない。それをそのままでもいいのだろうか？

高齢者は言っても通じない！！

高齢者支援については少しずつ進みだれもが理解できる内容にありますが、障害者が地域で安心して暮らすには多くの理解と支援が必要です。障害者だけではなく家族に対する支援も必要だと思います。特に親が高齢化してくると。

・町内会組織を有効に活用することは必要かと思いました。地域高齢化が進んでいます。出前教育などの機会、出向く機会があることは移動困難な世帯に有効かと思いました。・様々な福祉活動を実践している団体さんは、自分たちの活動の巾を広げたり、活性化するための方策に苦慮されています。知ってもらう為に、住民組織である町内会のアクセスは今後大切になってくると思います。町内会においても、防災避難の在り方、住民の把握、民生委員の高齢化など問題を抱えていますので、「町内活動の活性化」はキーになるかと思いました。

継続的に取り組むことが大切だと思います

今日までの「きずな」の活動内容を鑑みるに、地域の住民とのかかわりが多くある内容に思えます。そこで地域の実情や問題を誰よりもよく理解しておられるのは地域の町会長や役員の方々だと思います。福祉実践計画を策定するにあたって、きずな推進委員をそれぞれの地域、町会等の方々を登用してはと思います。当然小学校区から登用された推進委員の方々は町会のお役を持っている方も大勢いると思うのですが、それぞれの町会を抱えている問題も反映させ、また実際に推進計画を実行するのは町会にゆだねられるのではないかと考えます。

避難行動要支援者名簿、きずなづくり台帳に登録する方法を具体的に教えてほしい。体調が悪い、足が不自由などで台帳に誰がどのように申し出て登録になるのか良くわからない。

各町内会へのきずな計画に対する理解をもらい協力を願う

行事等実践するにも役員が高齢者であり助ける側でなく助けられる側となり計画を立案しづらくなってきた！

1人暮らしの高齢者、子どもが他県に暮らしている場合どのようなことを学ばせてほしいです（知りたいです）要介護、要支援、介護施設入所の場合、住所支払い、その他大事な要件等々沢山あると思います。私が認知症にならないうちに教えてほしいです。それにより息子（鹿児島）となにかと沢山話をしておきたいです。子ども2人息子（鹿児島）娘（神奈川）。私が持ち家の場合

やはり会合等多くしたい。そうしたなら仲間も増やすことができる
高齢者問題の取り組みはもちろん大事なことです、障害者についてももう少し内容の見える取り組みをしてもらいたい。施設等にしても障害者が使える施設は高齢者もちろん使える施設になります。
若者がいない町では福祉活動にも限界があると思う。若者が少しでも多く住める街づくりが先決だと思う。そのためには若者が働ける企業の誘致や企業の設立についてのアイデアをもっと真剣に考えることが重要だと思う。若者が働く場所が出来ればUターンの若者も多く集まると思う。そうすることにより街もやがては活気づき始め老いる人も若者も子供達も増える新しい街になるのではないのでしょうか。温泉にばかり頼っていては街は発展しないと思います。今こそ真剣に考えるべきではないのでしょうか…。
・地域に根差した、住民を巻き込んだものとなることが理想ですが難しいですね。・温泉地区の買い物バスは本当に良かったと思います。三愛病院に感謝です。・地域で必要とされていることを少しずつ実現していきたいですね。
参加してほしい人が出てこない。とじこもりの50代を出てきてもらえるように指導
地域力を高める活動。サロンサポーター研修の充実。他地域の活動事例の研修。老いてもなお継続できる方法
町内会役員を辞退して6年近くなり、地域の福祉活動についての情報が入りづらくなり詳しくわからない部分があり、自分の今、思う考えを記入させていただきました。質問8については家族の者が社協のお手伝いをさせていただいていますので、意見を参考に記入した。
ボランティア活動、町内会活動も後継者不足や役員の高齢化が顕著になっています。教職員や公務員の退職直前にボランティア活動、町内活動に参加することでの社会的貢献のアピール、自身の老後に向けて健康維持のPRを積極的にしていくべきと考えます。
ありません
町内会への加入促進を促す名案が欲しい（毎年思うが、登別市は70%強の加入率と聞いているが）

若い人の福祉に対する考えや行動が希薄に感じられる。定年が伸び、地域で働く60代がまだ働く意欲が盛んで、ボランティア等に時間を費やしたくない、さらにせっかく今まで働いてきたのだから時間はたっぷりある、遊びを満喫しようと他のことを考えず自分のために楽しもうとする人が大半。民生委員のなり手がいない。町内会の役員になりたがらない。互助の精神はどうしたら生まれるのかを考えていかなければならないと思う。子ども、育成部等でただ楽しませるだけでなく、子ども同士に計画を立てさせ、大人がやってやるのではなく、見守りだけ等で社会への参加を促すのも一考だと思う。

将来的に町会会館も廃止の方向に進んでいる。近くに活動場所がないと町会消えることになると思います。町会に15戸ほどの空家あります。その中から町会活動の家（きずなハウス）として活用してはどうか。また空家を市で買い上げ市営住宅として家族の多い世帯、2世帯同居者、市の職員に賃貸（安く）しても良いのではないのでしょうか。

まだ積極的に活動をしていませんが、地域のおじいさんおばあさんと挨拶などでかわりを持っています。息子さんや娘さんが行き来されている人は安心ですが、一人暮らしの方だと心配です。プライバシーもあるので人に知られたくない方もいると思うので、福祉サービスを積極的に利用してほしいと思います。

登別市内の会社に社会福祉協議会からやってほしいことを発信してほしい

自分としては「福祉」という分野に現在の活動が当てはまらないと思います。花のボランティア活動はマチづくり、マチの美化を目的としているので、対人間のボランティアの方たちと意識が違うと思います「きずな計画」の構成のジャンルに入るのでしょうか？草刈りや公園整備、奉仕など”公共エリアの美化”のボランティア部門があれば仲間になりたいです。

登別市からも地域福祉に関するアンケートがありましたが、市と社協とは別物なののでしょうか？町内会の役員や民生委員は報酬があるがボランティアも有償にしてはどうか。登別市の社会福祉に関して冷たい福祉と言われている。やってるつもりの福祉はいらない。

会議や活動に誘い、かけ声をかけるのが大切なことだと考えているが、数名の役員に限られる。ほかの人にも参加を呼び掛けるしかない。

コロナで停滞してしまったのを再び盛り上げるのは大変なことだと思います。役員、会員、一層の努力が必要だと思います。まだまだ「きずな」ってなんという、町内会員の方がまだ多い現状です。あらゆる機会あることにアピールと行事やパンフレット等を通じてまた予算を確保してコロナの後の活動につなげていければと思います。また会員も年齢を重ねて、動きが悪くなったりガンコになったりしています。若い力をもっと活用して！

隣近所でもなかなか交流することが難しくなっているところにコロナ禍…地域のきずなを構築するのは本当に大変なことだと思います。特に働き盛りの若い方々は周りにどんな方が住まわれているのか知らないことが多いと思います。（私自身もそうでした）まずは「知る」ことでしょうか？（どんな方が周りにいるのか。「きずな計画」の存在そのもの、内容等）

町内会に入らない世帯が増え、特に若い世帯への情報発信が今のままでは不十分と感じます。福祉活動に魅力を持ってもらえるよう学生のうちからもっと福祉に参加できるような取り組みをしてほしいし、FBだけではなく若い人たちに多く使用されているアプリを活用していくのもよいと思います。現在働いている世代の新たな参加は数少なくなるのは福祉の件だけではない状況。今の子どもたちに福祉に興味を持ってもらうプログラム作りを頑張りたいです。まずは人材の育成・確保に力を入れて進めていってほしいです。各学校等のボランティア部に協力していただくのもよいと思います。

広報誌と一緒に配布されていることは知っていますが、あまり読んだことはありません。若い世代に福祉活動について興味を持ってもらうためには、SNSを利用し、情報を手軽にみられるようにしてほしいです。（フェイスブックはやっていない人が多い世代です。LINEやインスタを使ってほしいです。）また、地域で活動している人だけではなく、もっと様々な立場の人からの意見を聞いて計画してほしい。既に活動している人の意見よりも、新しい人材になりえる人の意見が大切だと思います。

「きずな」に関しては広報誌に折り込まれる冊子から情報を得ていますが、今回改めてFBがあることを知り見てみました。町内会に入らない世帯やあまり読まない方々にも情報が行き届くと良いかと思います。また社協の場所、イベントの会場等が幌別方面のみなので鷺別、富岸方面住民にはかわりが多いようなイメージです。町内会活動の活発なところは地域のつながりを強く感じるかと思いますが、現在は団体、組織のつながりを強く感じます。

一般住民に「きずな」を知ってもらう機会を増やした方がよいと思う。また気楽に参加できること。

ボランティア団体に入っている人たちがお互いの活動をもっと体験する場面があってよいと思う。例えばふれあいフェスは一般の人々が体験の対象だが他の活動も時間があれば体験してみたい。ボランティア推進のための会議の中でのグループを変えての毎回の話し合いは必要と感じない。実際に体験した方がお互いを理解し合えると思う。

少し元気で一人で暮らす高齢者が増えています。仲間がいたりサークル活動が出来る時はいいですが、できなくなり家の中でずっといると精神的にもおかしくなってくるので、心を許して話ができるようになるまで大変です。包括支援センターも担当の利用者を回るだけでいっぱいなので、地域に関わる人を増やしていけるように気軽な講座を開いたらどうでしょう。地域の福祉部の活動の充実を図りたいです。

・何の行事でも外に出てくる方はいろんなコミュニケーションすることができますけど、来る人は毎回来るけど来ない人は全然出てこない。それでいて話し始めたらたくさんの困ったことや解らないでいることが多いようです。こういう方々をどのようにでてきてもらうかが問題かなあ～？・それぞれの専門知識の方々の勉強会もあってほしいですね～①SNSの使い方、②宗教的遺骨問題、③お寺のお金問題、みなさん何かしら疑問に思っていることがあります。簡単な説明でもよいと思います。

まずボランティアとは自分自身に体力に自信があり、またいつも優しい心で接するのがいいと思います。まず自分が健康でそして相手の方に自分がやさしい心でふれあうのがいいと思います。

町内会活動の一環として福祉活動を行っているが、（かつては親睦が中心となっていたが…）超高齢化、少子化の現在その方向（福祉活動中心の）に向けた転換が必要と考えている。しかし、町内会役員の成り手が少なく、極めて難しい状況である。まずは理想的な姿を求めるというより、無理のない現実的な取り組みを中心に地域のつながりが切れないようにと考えている。

19. 第4期きずな計画へのメッセージ

回答数

87

社協の方々もご苦労様です。なにか相談事があるときはよろしくお願いします。自分自身を大切にしながら、これからも努力させていただきますのでよろしくお願いいたします。

特になし

皆様が仕合わせづくりのパートナー、生きる根っこを太くしていきましょう。

無理押ししない事。「きずなニュース」を誰が郵便箱に入れたと訪問時に言われました

地域福祉活動の原点は社協が提唱している「小地域ネットワーク活動」と思っています。市内では少子高齢化や核家族化が進み、地域においては近隣関係の希薄化となっている現在、日頃から「向こう三軒両隣」の「声かけ・助け合い・支え合い」の「近助の絆」が重要な時代であると思います。第4期では「地域の絆」（共助）「隣人の絆」（近助）を全市的な活動として取り上げ、社協・市（消防含む）・市連町・民生委員児童委員協議会・身障団体・市内包括支援センター（3センター）が一同になって実践に結びつく話し合う場をつくり、市内から孤立・孤独のない地域社会をつくっていただきたいと思います。

1人1人が他人に興味・思いやりをもっともっと支え合える社会にしていきたいですね！

新型コロナの影響で、ボランティア団体も社協さんとのつながりがとりづらくなっています。メッセージを取りやすい体制の確保など考えられる事を一緒に模索していきましょう。よろしくお願いします。

1人暮らしの方々の不安、悩み等の話が聞けて少しでも楽しい時間が過ごせるような活動ができたら嬉しいですね。

ファミリーサポートにはいつも助けられています。これからも変わらず継続してほしいし私も手助けになることがしたいです。

社協、きずな委員会もそうですが、役職者は引き受けた時点で一番大切な仕事は自身の後継者の育成です。役員になった時点で退任も意識化しなければ組織のサステナビリティはありません。その覚悟が見受けられない、残念。

現役で就労している人の多忙化により、50代以下の方がボランティア活動に取り組むことがほとんどなくなり、ボランティアは高齢者中心となっていることを本当に残念に思っている。社協の皆様におかれましては、単発的な組織に所属していない人でも気軽にボランティアに取り組めるような体制を更に充実させていただきたい。

地域の課題解決にむけてより多くの方がサロンサポーターに参加してくることを祈っております。
質問18の回答と同じ。
町会の役員も会館内の行事に参加するだけではなくたまには声かけの訪問をする。今進行中のまごころレターは良い試みだと思っています。
もっと地域、町内会と連携し情報交換やサロン等への予算化含め、ともに支えられ寄り添う福祉になればと思います。
アンケートの質問項目が類似・重複している。
これからも「きずなアンケート調査」が必要だと思います。良い取り組みの実現を願っています。
コロナ禍で孤立した生活をされている方が元気に外に出て少しでも楽しい時間が持てるようにその足がかりのお手伝いができるように協力して行きたいと思います。
このアンケートの作成や集計など大変な作業ですががんばってください！
福祉が全市民にとどく活動が出来る様に期待してます
町会の方々を日頃気になりますが一番の心配は孤独死がないように祈ってます
履行する人も高齢化になっており協力者も少なくなっていると思う。高齢者は特にメンツにこだわり素直に依頼しないケースも。無理な計画や内容も検討し、あまり数を抱えず一つ一つ実施し、将来につなげていくように。具体的には？申し訳ない。
身近で共に助け合える活動ができるといいと思います
なし
・手を広げすぎず一つずつ着実に事業を拡大すること。・個人個人の能力向上を図り、少ない人数でも事業を継続できるようにすること。まったく経験や知識のない方に指導しながらボランティア活動の輪を広げること。・上記を含め若い世代にわかり易く参加し易く計画の策定を願っております。
ひとりでも多くの方がつながり、わかりあえて、よりよい生活が送れる計画に向けてお願いします。
形ばかりの計画より向こう三軒両隣の活動をもう一度見直しては。

日頃の社協の皆様の活動に感謝申し上げます。個人的に深くかかわっていなかったので今後きっかけがあればともに参加したいと思います。その意味で私に何ができるのか…掘り起こしの場があらためて欲しいかもしれません。

きずな計画の浸透が急務です。町内会役員、民生児童委員の中にも全く理解されていないのが現状です。

自分自身が策定メンバーなので会議等で意見を述べていく所存です。事務局主導の進め方でやむを得ないと考えますが、参加者は積極的に意見を述べ、参画してほしいと考えています。会議進行役に期待します。

福祉に関する担い手づくりに全力に取り組みます。

まごころレターを有難うございます。会員皆様にとっても喜ばれています。これからもよろしくお願いいたします。

今はない

高齢化、少子化により、より現実的な計画の策定

地域住民の高齢化のため地域の人間だけで行動するのが難しくなっており、市などの主導で組織の再編などを手掛けてほしい

今後年を重ね、福祉の方々のお世話になることになると思います。福祉の向上を期待しながら今できる人のお役に立てることをやりたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。

地域デザインをするために8校区からさらにきめの細かい93町内会単位（温度差があるが）にも協力を得て実情、情報、評価、把握等も必要と思います。

プロジェクトチームに女性が入っていないのは何故ですか。世の流れと少し違う気がします。メッセージではなく感じたことです。

現実的にできるできないことを明確にすること。高齢化によるボランティア者が多く、しっかり現実を見ることです。各個人の意見を多く収集すべし。

町内会活動は役員から一般の人への助成ではなく、会員相互の互助であることを明確に。

”さあ～いよいよ4期目に突入ですね”1～3期迄の実践計画を基にしてさらに充実した内容の計画策定を期待します。

特にありません

理想と現実は大変むずかしいですが自分と大切な人を護り安心できる暮らしができることを望んでいます。いつも大変ご苦労様です。

新型コロナ感染症の収束が見通せない中、福祉活動を継続し実践していく関係者の皆さまに敬意を表します。

特になし

第1期～第3期まで地道に実践されてきたことと思います。これからも時間はかかると思いますが、少しずつ住民の意向を汲み取って進めていってください。

きずな活動は素晴らしいと強く感じているひとりです。人を育て、人を助け、人と人とが学び合い、人と人とが傾聴し合い、人と人とが共有し合い、健やかな心が形成され合い、安全と安心な福祉のまちとして飛躍していくためにもみんなで「きずな」をきずき合いましょうを唱えメッセージ寄せとします。

小さな活動でも多くの人が取り組める内容をもり込んでもらえるとうれしいです

いつもおつかれ様です。毎月2回配布されるまごころレターは皆さん楽しみに待っています。今後も宜しくお願いします。

きずなは深めてほしい。中身のある新しい発見を期待しております。

町内会＆老人クラブ等脱会者増への歯止め対策。加入の呼びかけ・役員のなり手等について研修、指導、助言いただきたい。

特になし

外部の講師による講話よりも各町会で行っている活動内容のお話などを多く入れてもらえることが大切だと思います。

きずな推進委員会の方々と町内会またはサロンとのきずなが見えてこない

コロナ禍で人と人との距離をとって感染対策を十分にとって活動することはとても心労が重みます。しかし人は人によって助けられるので10年先、20年先を見据え今を乗り切っていきたいものです。

周りを見ると老夫婦もしくは1人で（子供達は市外へ）大きな家を持ち生活している。老人長屋でも良いから一棟10人程度で暮らせるのが本当の理想と思う。（自分たちで）（大きな）戸建ては高齢者になると空き家問題等が発生している状況にある。市としても少子高齢化が進んでいる中、今後の10年20年先の見通しを進めてほしいと思う。

焦らず、マンネリを恐れず

頭が下がります。がんばって下さい。アンケートを重複して書くのでしょうか

登別に障がい児高校が欲しい！！

コロナ禍、まめに連絡、心のケアを 深めよう互いの絆

誰もが安心して、満ち足りた生活を送ることのできる街づくりを願い、少しでも皆様のお力になれるよう活動に参加させていただきたいと思います。

社協ならびきずな推進委員の皆さまのご尽力で多くの方々からアンケートが集まったことと思います。せっかく広く皆さまから集まった意見ですので、少しでも多く福祉実践計画「きずな」に反映されることを望みます。

第3期障がい福祉計画にもきずな計画の文言が織り込まれています。実践計画として住民に形になって目に見える活動が1つでも多く実現できるよう、住民の1人として参加したいと思います。第4期きずな計画に期待を寄せています。

頑張ってください

大変素晴らしい実践計画が策定されるものと思います。これらのことが、より多くの方々に受け止められ活動され、実際の地域の住民に反映されることを切に願います。

できるだけ多くの方がきずな計画を知っていただき参加できればと思っています

きずな委員増員計画をお願いいたします

町内会の災害時における取組等をわかりやすく明記してほしい。障害者と言ってもそれぞれに違う障害なので福祉避難所の設置等も考慮してほしい。

・若い人たちに今、何ができるか（ボランティア活動）を聞いてみたいです。・高齢者（70歳以上）の人が考えるきずな計画だけではなく、もう少し若い人の考えるきずな計画も必要ですね。・私達の住んでる町を少しでも住みやすく、安心できる町になるよう皆の力で知恵を出しましょう。

団地居住者が福祉について話し合うこともない、団地居住者と一般住宅生活者の交流する機会がない

「魅力」という言葉はそぐわない！！

町内は皆仲間、あいさつしよう！

・私たちは障がい児者を抱える家族の団体なのでお互いに地域の方々と支え合うというところではなかなか手を貸せない現状にあることは申し訳なく思っています。なので助けてもらいたい部分が多い中では、親が一緒だから大丈夫だろう…重い障がいだから見られない…などではなく、やはり孤立しないように声掛け（地域の方に）をしてほしいと感じている方もいます。・また、障がい児者（特に重い方）がいる兄弟姉妹もなかなか地域の活動に出向くことができないなどの問題もあります。そのような方々や子どもたちとのコーディネートも忘れないでほしいと思います。・一般企業等（地域の）への声かけも率先して活動してほしいと思います。何か支え合い、助けてくれることがあると思います。

アンケート集めご苦労様です。新しい一歩となる意見が集まってほしいですね。

行政側がより協力体制をとってほしい

計画実施策を決定し、各組織ごとの現状の把握により、年次達成目標を設定し、進捗管理しなければならないは、すべての組織に同じタイムスケジュールとゴールを求めている感じがある。※途中参加のため、誤認識があればお許してください。

大変な活動計画ですが、少しでもおし進めていくことを取り組みます。

絆づくりが明るい街づくりに希望の明かりに繋がることを学ばせていただきました。「あいさぽーと運動」の研修を通して、様々な障がいを正しく理解し障がい者が生活の中で困っているときに声かけやちょっとした手助けをする機会になりました。人と人とのつながりを大切に支え合って共生の輪が広がることを願います。

人と人との直接情報交換がますます減少していく時代になり、生活の暮らし方は完全に変わっていく。いろいろな通信情報機器を知らないと孤立生活になりがちだ。街中に情報機器センターのような場を設置し誰もが自由に得られるものへと使いやすいものにしていくこと。

大いに議論をして策定していただきたい。

日々の活動、本当にありがとうございます。自分の役割（きずな計画遂行にあたって民生委員としての）をしっかり果たせるよう努力していきます。

個人（ひとり）を尊重しながら支え合う関係を築き上げることはとても難しいことです。都市計画、生活圏、世代と世代間のつながりなどこれからは「顔が見えるつながり」から「顔が見えなくてもつながっていること」を意識していく、意識してもらう取り組みが必要だと思います。ふだんは気になけなくても困った時に支え合え、時代の変化に対応できる（人口や世代別ニーズ等）計画を期待しています！

登別市民でよかった！うれしい！と思えるような計画を策定してください。期待しています。

向こう三軒両隣の基本理念を見失うことなく継続していくことを大切と思います

やさしい人たちの思いが伝わります。みなさんの心がたくさんの人たちのためにご苦労様です。ありがとうございます。頑張ってください！自分も今は身動きが取れないでいますけど、その内お手伝いできるようになったらよろしくお願いします。

計画策定ありがとうございます。できれば我々町内会単位のものが具体的に（どのようなこと）をやればいいのか例示していただければありがたい。そのことによって目的達成が出来るようなもの…。市全体⇒連町⇒町会とそうになっているとは思いますがさらに…！！（我々がこれをやればいいんだと思えるようなもの）

アンケートの集計はできると思いますが、その集計をもとにして福祉活動の魅力を進めるのが良いかが問題だと思います